

卓越大学院プログラム
中間評価
アンケート調査結果

結果報告

令和5年3月

独立行政法人日本学術振興会
卓越大学院プログラム委員会事務局

実施概要

アンケート実施期間：令和4年4月18日（月）～5月27日（金）*

*5月13日（金）締切を5月27日（金）まで延長して実施

アンケート対象学生：

1. 抽出条件

卓越大学院プログラムに選抜された学生のうち、令和4年度までにプログラムに入学（編入も含む）した学生で、且つ現在（アンケート実施時点）も在籍している全学生

2. 対象者数

530名

3. 回答者数

487名（回答率91.9%）

アンケート対象プログラム担当者：

1. 条件

令和4年4月1日現在の全プログラム担当者（ただし、同日付けで新たに担当者となった者を除く）。

2. 対象者数

947名

3. 回答者数

770名（回答率81.3%）

アンケートの回答依頼スケジュール（参考）：下記の表のとおり。

	担当者	学生
回答の依頼	4月18日（月）	4月18日（月）
第1回リマインド	5月6日（金）	5月6日（金）
第2回リマインド	5月13日（金）	5月13日（金）
第3回リマインド	5月17日（火）	5月17日（火）

・上記のほか、不達との連絡が大学からあった際には個別に配信。

目次

目次	2
第1部 学生アンケート調査結果	5
1. プログラムへの参加動機（問7-1）	5
2. プログラムがなかった場合の最終学位（問7-2）	6
3. プログラムに対する感想（問8）	7
4. プログラムで受けた指導（問10）	8
5. 環境の整備と有効性（問11A）	10
6. 経験の有無と有効性（問11B）	11
7. 身に付いた能力（問12）	13
8. プログラムへの評価（問13）	14
9. プログラムの効果・負担（問14）	15
10. 修了後の進路（問15）	15
11. 学生の属性（問2, 3, 4, 5）	17
12. プログラム情報の獲得方法（問19）	20
第2部 プログラム担当者アンケート調査結果	21
1. プログラムへの関与（問3）	21
2. 指導の内容（問5）	22
3. 実施されたプログラムと整備された環境（問6）	24
4. プログラムの有効性（問7）	26
5. 運営・管理（問8）	26
6. プログラムに対する印象（問9）	27
7. 指導・支援の改善のための評価等の実施（問10）	28
9. 参加教員の属性（問2, 3, 4）	29
附録A サンプルと回答者数	32
附録B 学生アンケート調査と単純集計結果	33
附録C プログラム担当者アンケート調査と単純集計結果	50

【参考：学生とプログラム担当者の設問の比較】

以下の設問については、学生とプログラム担当者へ同じ質問をしています。参考までに対応する設問の一覧を示します。

学生		プログラム担当者	
問 10	<p>【4. プログラムで受けた指導】</p> <p>このプログラムで、下のような指導を受けましたか。また受けた場合、それは有効ですか。</p> <p>-----</p> <ul style="list-style-type: none"> ・副指導教員など指導教員以外の教員からの指導 ・企業、政府機関など学外者からの指導、助言 ・メンター等による授業外のサポート ・産学共同研究の場への参画 ・主専攻以外の分野の授業等の履修 ・研究室ローテーション ・プロジェクト形式による授業や課題 ・キャリアパス具体化のための情報提供 	問 5	<p>【2. 指導の内容】</p> <p>このプログラムで、先生は下のような指導を行われていますか。また、行っている場合はそれは有効ですか。</p> <p>-----</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導学生以外の学生への指導 ・主専攻以外の分野の学生を対象とした授業等 ・産学共同研究の場への学生の参画 ・研究室ローテーションの受け入れ ・プロジェクト形式による授業や課題 ・メンター等としての授業外のサポート
問 11 A	<p>【5. 環境の整備と有効性】</p> <p>このプログラムで、下のようなことは整備され、経験していますか。またそれは有効に機能していますか。</p> <p>-----</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奨励金や授業料の補助等大学からの金銭的支援 ・異分野の学生間で切磋琢磨できる環境 ・外国人、職業人など、通常の大学院では接触しにくい人との交流の機会 ・学生のみでプロジェクト等を企画・運営する機会 ・QE (Qualifying Examination) などによる審査の機会 ・英語による授業、指導、QE 等の機会 		<p>【3. 実施されたプログラムと整備された環境】</p> <p>このプログラムで、下のようなことは実施、あるいは整備されていますか。また1～3を選択した場合、それは有効に機能していますか。</p> <p>-----</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業、政府機関など学外者からの指導 ・キャリアパス具体化のための情報提供 ・奨励金や授業料免除等大学からの金銭的支援 ・異分野の学生間で切磋琢磨できる環境 ・外国人、職業人など、通常の大学院では接触しにくい人との交流の機会 ・国内の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ（1月未満） ・国内の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ（1月以上） ・国内の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ以外の国内での学外活動 ・海外の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ（1月未満） ・海外の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ（1月以上） ・本プログラムの中での留学 ・海外の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップおよび留学以外の国外での学外活動
問 11 B	<p>【6. 経験の有無と有効性】</p> <p>このプログラムの枠によって、下のことを経験しましたか、また経験した場合それは有効でしたか。</p> <p>-----</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国内の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ（1月未満） ・国内の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ（1月以上） ・国内の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ以外の国内での学外活動 ・海外の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ（1月未満） ・海外の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ（1月以上） ・本プログラムの中での留学（3ヶ月未満） ・本プログラムの中での留学（3ヶ月以上1年未満） ・本プログラムの中での留学（1年以上） ・海外の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップおよび留学以外の国外での学外活動 	問 6	

<p>問 12</p>	<p>【7. 身に付いた能力】 このプログラムによって、下のような能力は身についたと思いますか。</p> <p>-----</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高度な専門的知識・研究能力 ・高い国際性 ・専門以外の分野の幅広い知識 ・物事を俯瞰し本質を見抜く力 ・自ら課題を発見し解決に挑む力 ・独創的な能力 ・チームのマネージメント力 ・企画立案、関係者との調整、統率する能力 ・他者と協働する力 	<p>【4. プログラムの有効性】 このプログラムは、学生に以下のような資質を身につけさせるのに、どの程度有効ですか。</p> <p>-----</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高度な専門的知識・研究能力 ・高い国際性 ・専門以外の分野の幅広い知識 ・物事を俯瞰し本質を見抜く力 ・自ら課題を発見し解決に挑む力 ・独創的な能力 ・チームのマネージメント力 ・企画立案、関係者との調整、統率する能力 ・他者と協働する力
<p>問 13</p>	<p>【8. プログラムへの評価】 以下のような点について、どう考えていますか。</p> <p>-----</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プログラムに参加する教員の間でプログラムについての理解が共有されている ・多くの担当教員の協働によりプログラムが運営されている ・指導教員や研究室スタッフを含め、プログラムに参加していない教員等はプログラムの目的を理解し、あなたがプログラムに参加することに協力的である ・学術研究だけではなく、企業や政府、国際機関などで活躍する人材を作り出す可能性が大きい ・後輩にもこのプログラムを勧めたい 	<p>【6. プログラムに対する印象】 以下の点について、どう考えられていますか。</p> <p>-----</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プログラム担当者間でのプログラムについての理解の共有ができています ・連携先機関と共通理念に基づいた教育が行われている ・既存の研究科等や機関の枠を超え、博士課程前期・後期一貫した体系的な教育課程の編成による高度な研究を通じた組織的な教育が行われている ・プログラムを通じて授与される学位の質保証が適切に行われている ・多くの担当教員の協働によりプログラムが運営されている ・プログラム担当者以外の教員の理解があり、協力的である ・大学の執行部が、プログラムの目的を理解し、協力的である ・優秀な学生が多数入学している ・今後優秀な学生をより多く獲得できる ・優秀な社会人の博士学位の取得促進が行われている ・学生はプログラムの意図を良く理解している ・学生にとって、将来の進路が明確になっている ・学術研究だけではなく、企業や政府、国際機関などで活躍する人材を作り出す見込みがある ・このプログラムによって、大学院制度の改善に大きな示唆が得られている ・このプログラムが補助期間終了後も大学の独自財源により持続的に運営される見通しがある ・これから進学を考えている学生にこのプログラムを勧めたい
<p>問 14</p>	<p>【9. プログラムの効果・負担】 以下のような点について、どう考えていますか。</p> <p>-----</p> <ul style="list-style-type: none"> ・このプログラムによって自身の研究に新たな示唆・知見が得られた（得られそうである） ・所属研究室での指導と、このプログラムでの指導が過大な負担にならないように考慮されている ・所属研究室において、自分の専門的な研究を進めて、業績を上げられると考えている ・修了後の進路に不安がない 	<p>【8. 学生への効果・負担】 以下の点について、どう考えられていますか。</p> <p>-----</p> <ul style="list-style-type: none"> ・このプログラムによって学生自身の研究に新たな示唆・知見が得られる（得られそうである） ・学生にとって、所属研究室での指導と、このプログラムでの指導が過大な負担にならないように考慮されている ・プログラムに参画している学生は所属研究室において専門的な研究を進めて、業績を上げられると考えられる ・学生の将来の進路に不安がない

第1部 学生アンケート調査結果

1. プログラムへの参加動機（問7-1）

学生にこのプログラムへの参加動機について、あてはまるもの全て（図1）と、その中で最も直接的な動機に近いもの（図2）について聞いている。

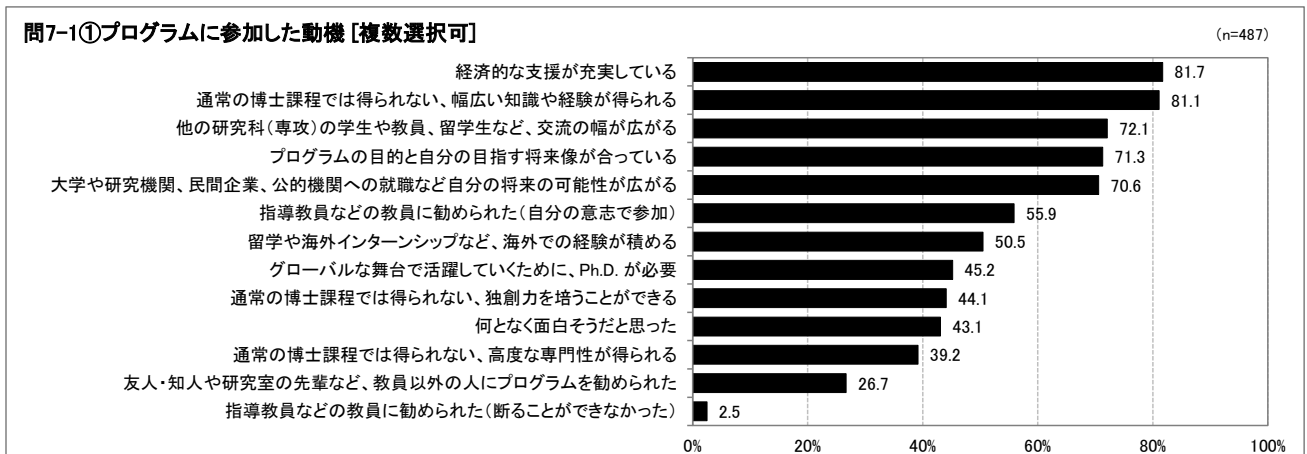


図1 プログラムへの参加動機（複数選択可）(n=487)

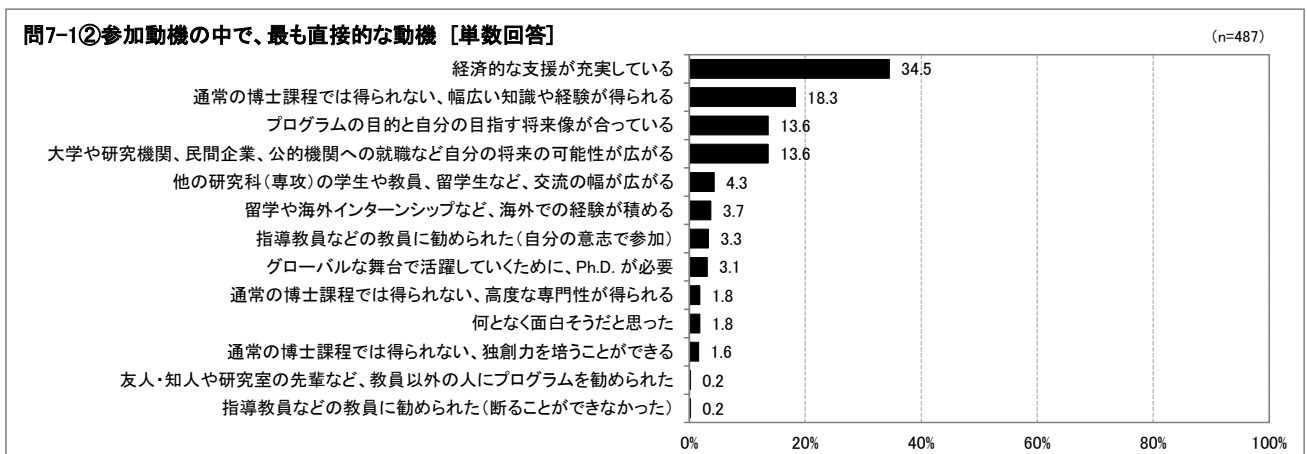


図2 プログラムへの参加動機（単数回答）(n=487)

2. プログラムがなかった場合の最終学位（問7-2）

学生にこのプログラムがなかった場合、どの最終学位を選択していたかについて聞いている。（図3）

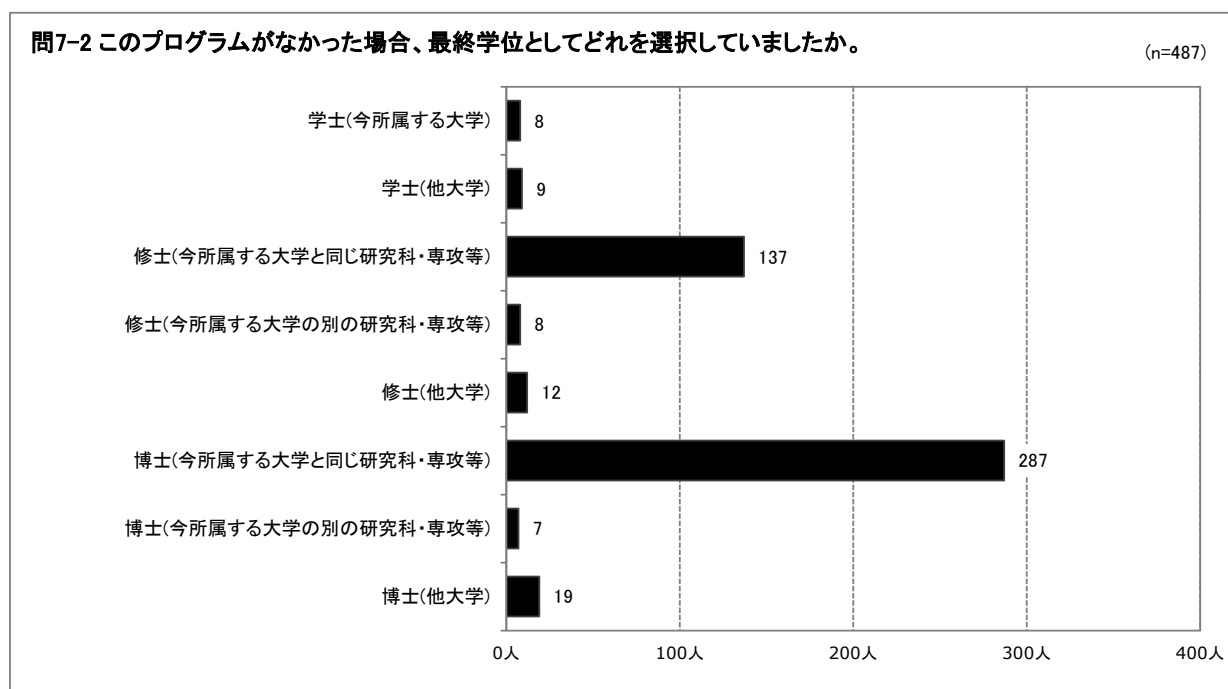


図3 プログラムがなかった場合の最終学位 (n=487)

3. プログラムに対する感想（問8）

学生にこのプログラムをどのように評価するか感想を聞いている。（図4）

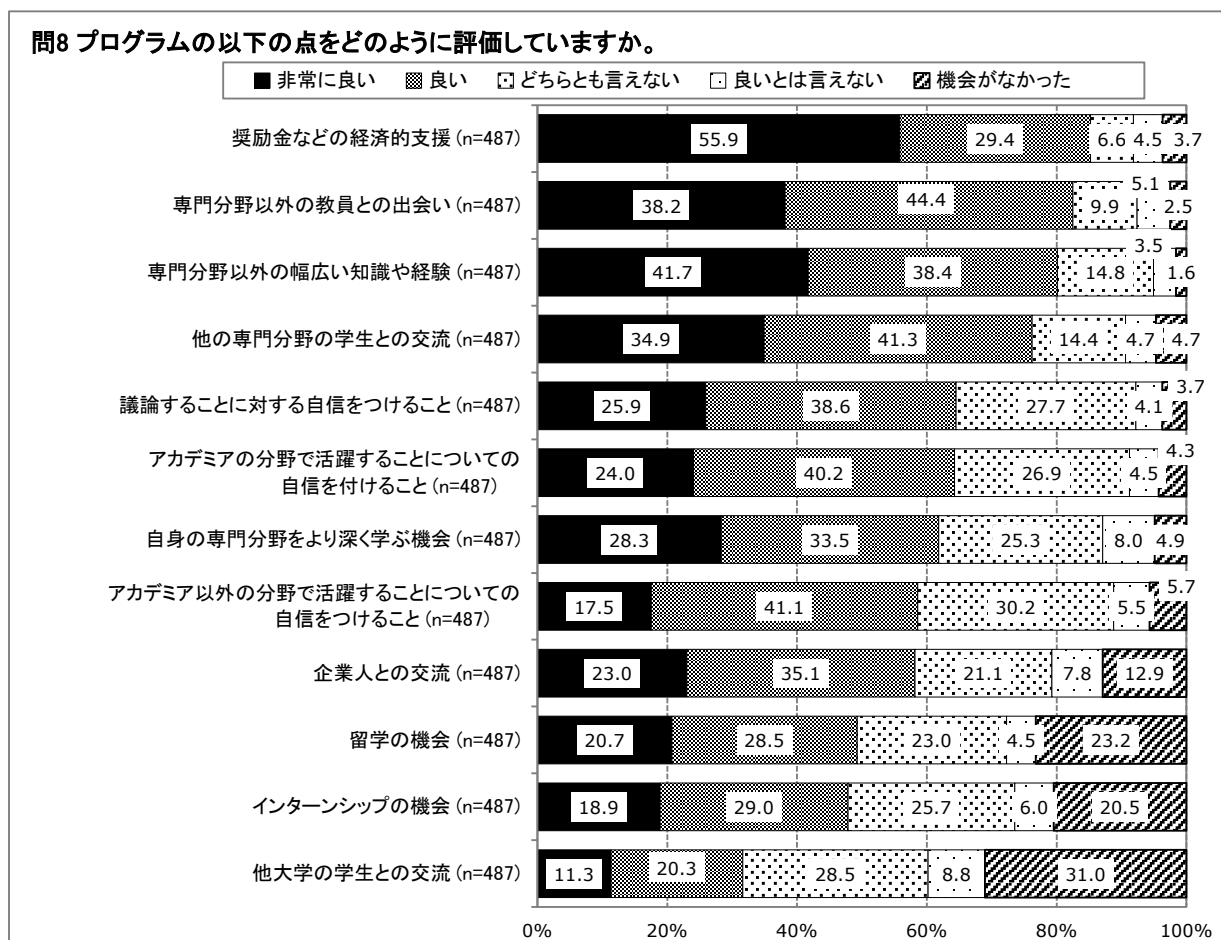


図4 プログラムに対する感想 (n=487)

4. プログラムで受けた指導（問10）

学生にこのプログラムについて、どのような指導をどの程度受けたか（図5）、また受けた指導は、それが有効であったか（図6）、について聞いている。

指導の内容

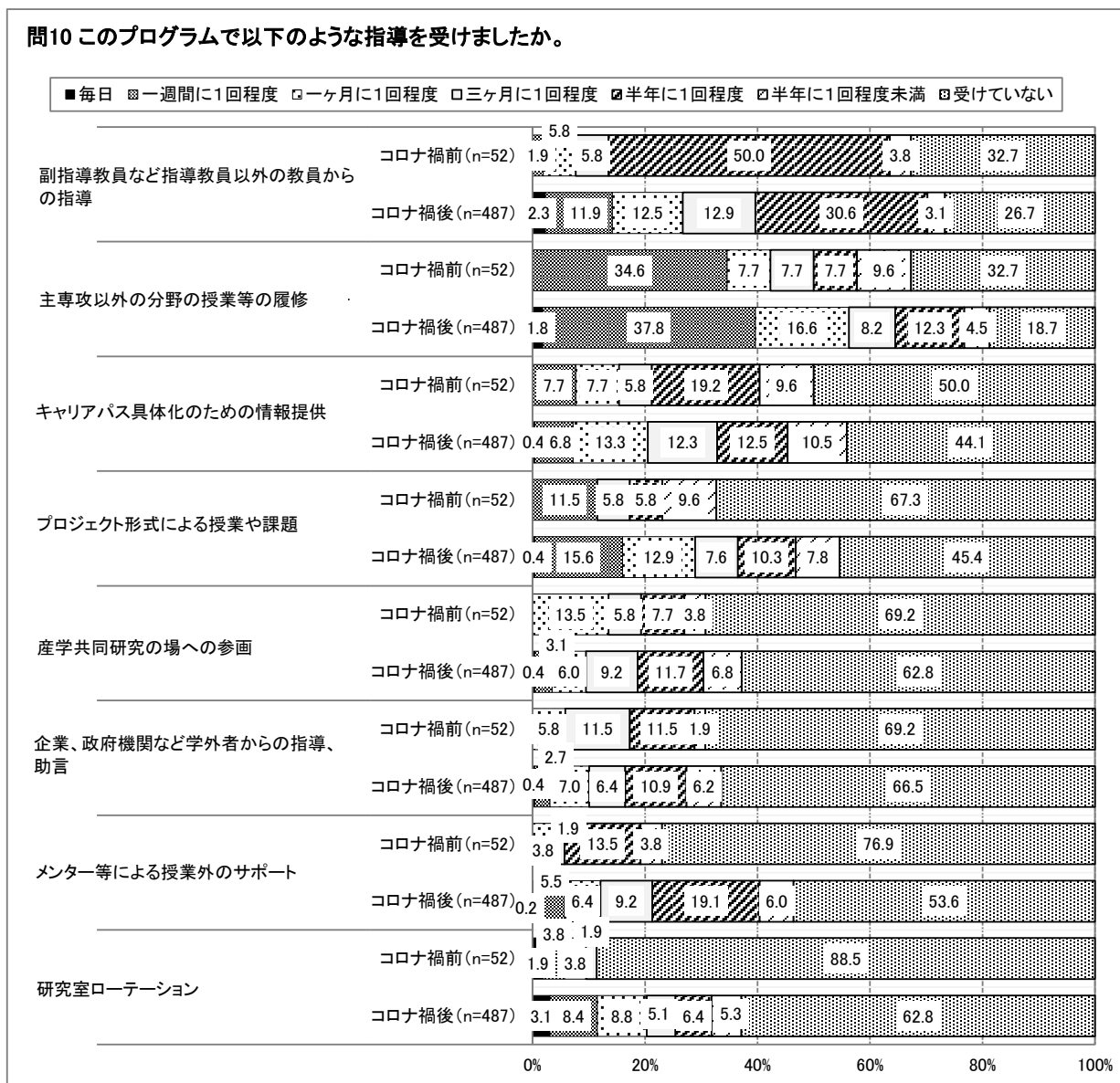


図5 プログラムで受けた指導（コロナ禍前 n=52、コロナ禍後 n=487）

受けた指導の有効性

<「毎日」～「半年に1回程度未満」を選択した場合のみ回答>

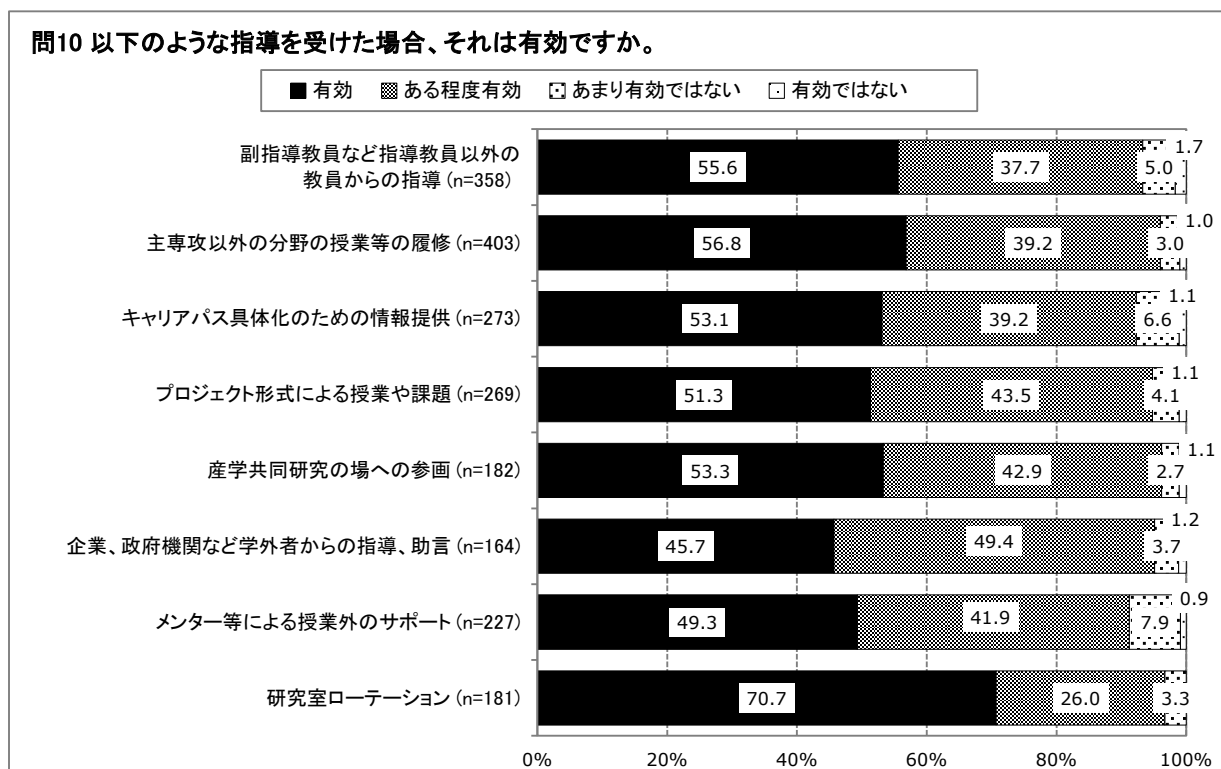


図6 指導を受けた場合の有効性

5. 環境の整備と有効性（問11A）

学生に研究やプログラムの活動に専念するためにどのような環境が整備され経験しているか（図7）、それが有効に機能しているか（図8）、について聞いている。

プログラムで整備された環境

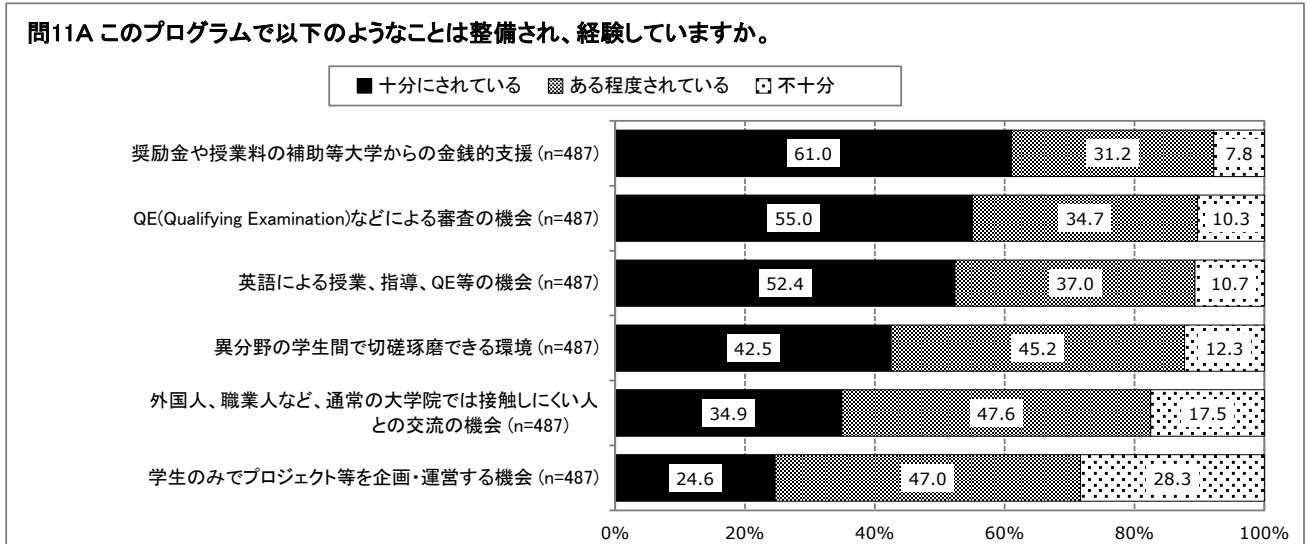


図7 プログラムで整備された環境 (n=487)

環境の有効性

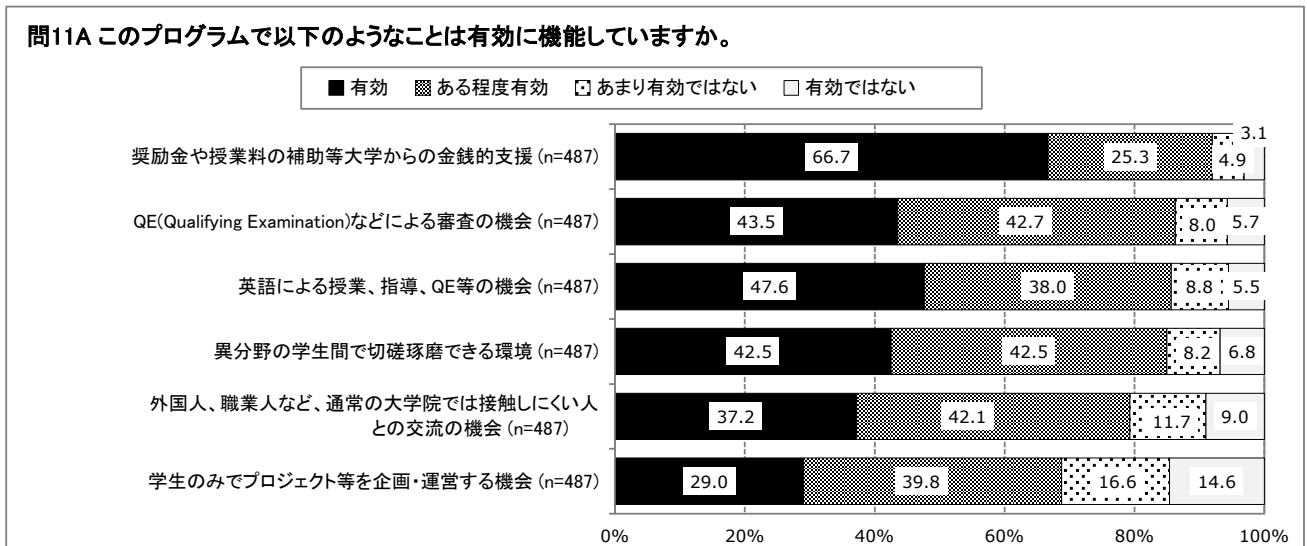


図8 整備された環境の有効性 (n=487)

6. 経験の有無と有効性（問11B）

プログラムで用意された活動に参加したか（図9）、それが有効に機能しているか（図10）について聞いている。

プログラムでの経験

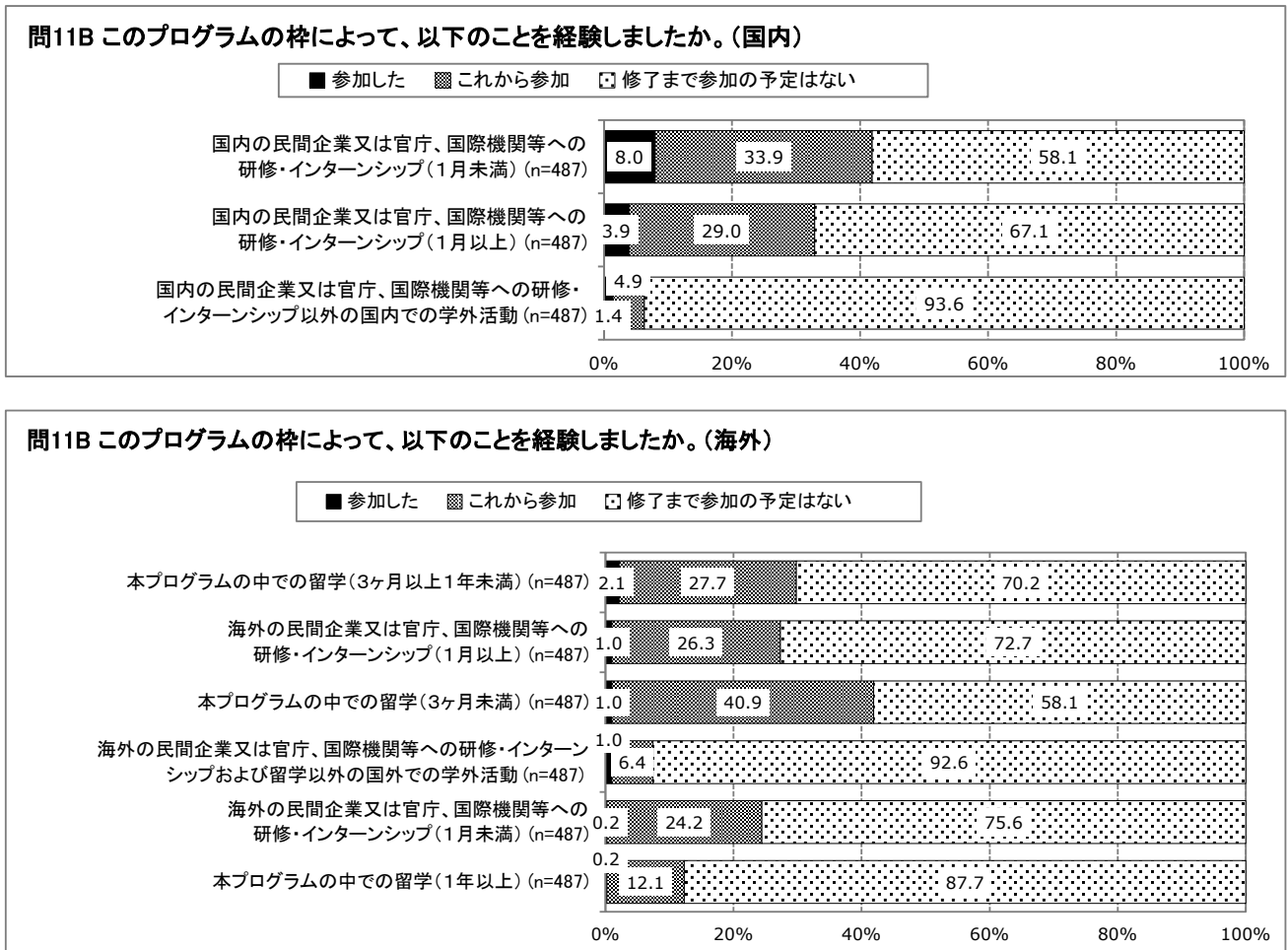


図9 プログラムでの経験 (n=487)

経験の有効性

<「参加した」を選択した場合のみ回答>

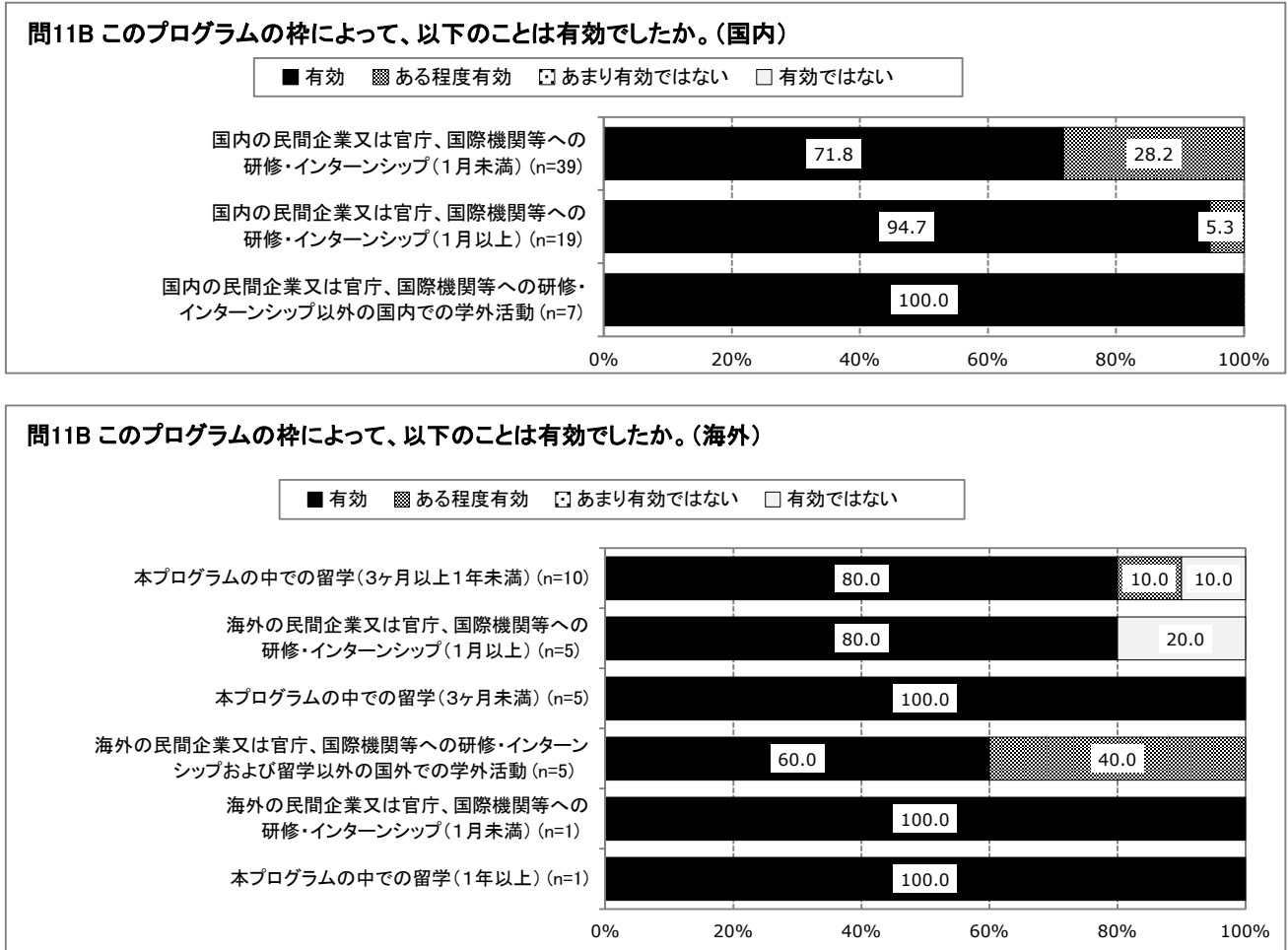


図 10 プログラムでの経験の有効性

7. 身に付いた能力（問12）

学生にプログラムに参加することにより身に付いた能力（図11）を聞いている。

身に付いた能力

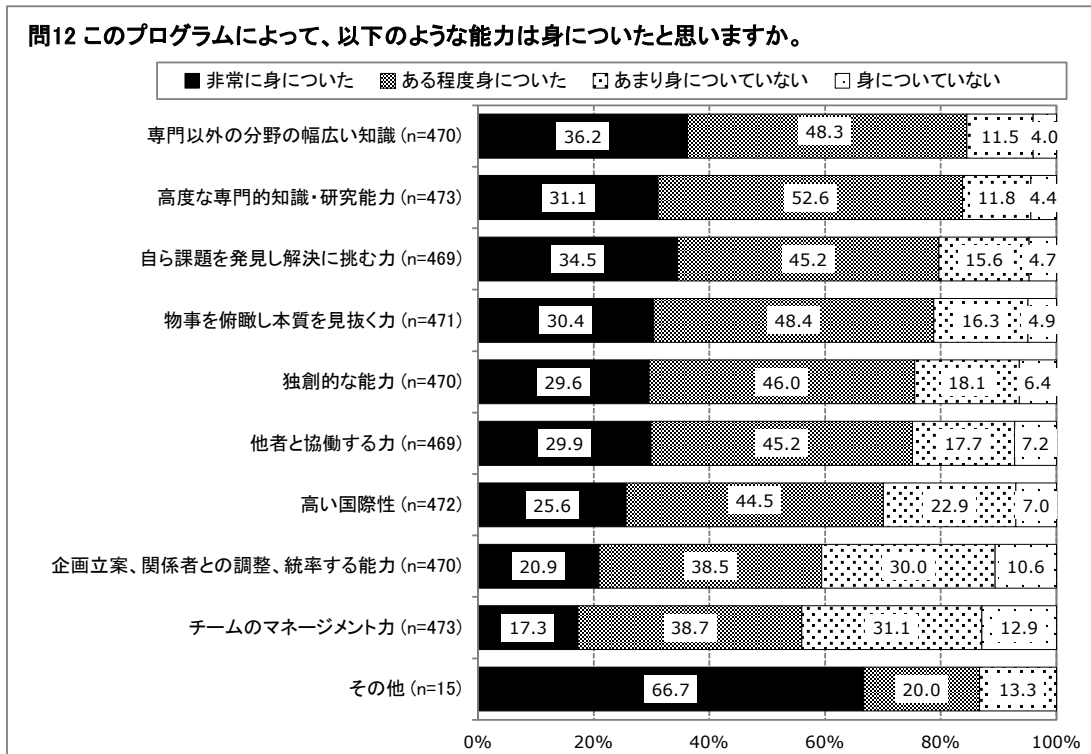


図11 プログラムによって身に付いた能力

8. プログラムへの評価（問13）

学生にプログラムに実際に参加している教員や、プログラムに参加していない周囲の教員等のプログラムへの理解や、プログラムそのものに対する印象を聞いている。（図12）

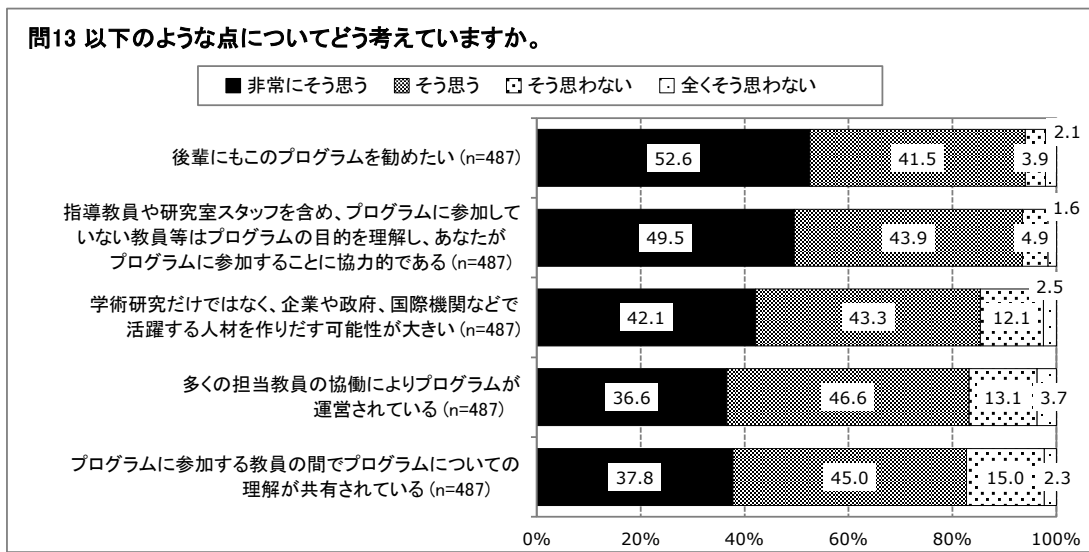


図12 プログラムへの評価 (n=487)

9. プログラムの効果・負担（問14）

学生にプログラム参加による研究面やキャリア面での効果、また負担について聞いている（図13）。

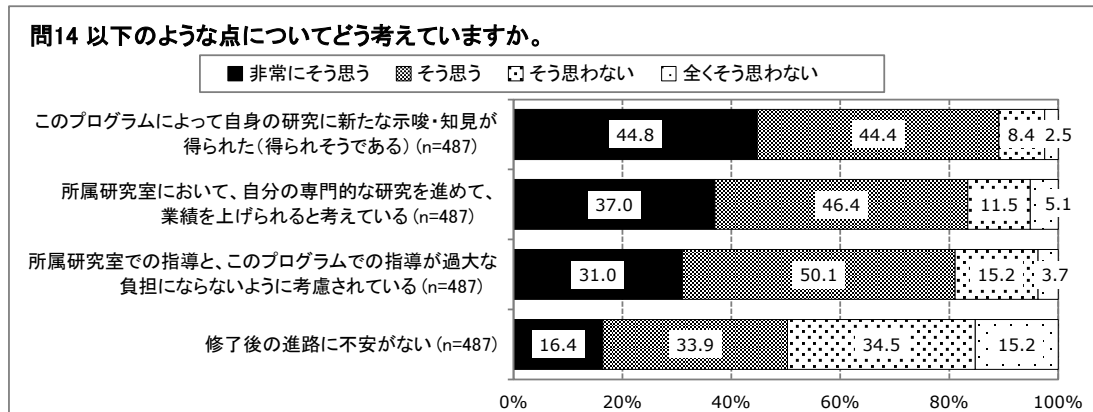


図13 プログラムの効果・負担 (n=487)

10. 修了後の進路（問15）

学生の進路について、入学時、アンケート回答時点（現在）の希望および決定した進路について聞いている（図14～図17）。

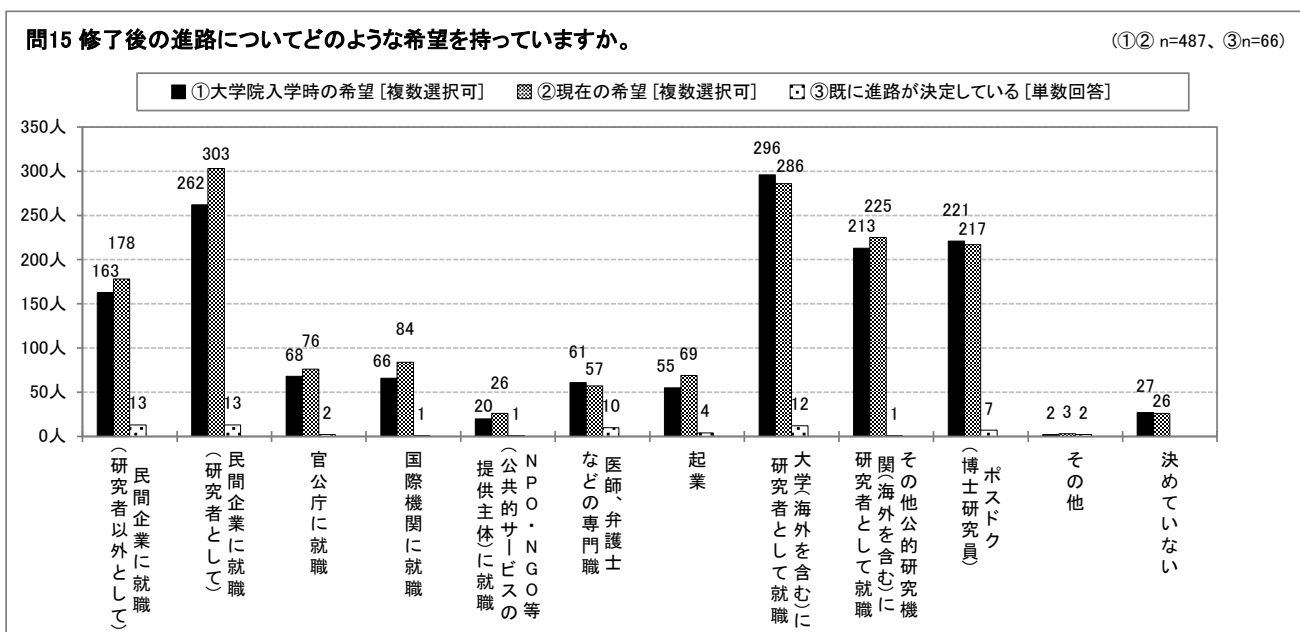


図14 ①大学院入学時、②現在の希望、③進路決定済み比較 (①②n=487、③n=66)

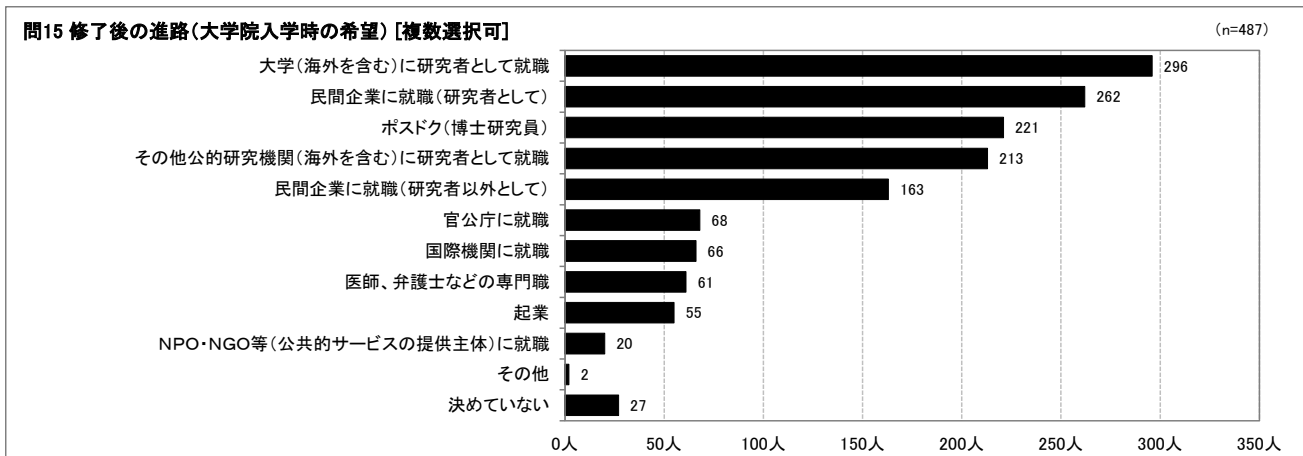


図 15 大学院入学時の修了後の進路の希望 (n=487)

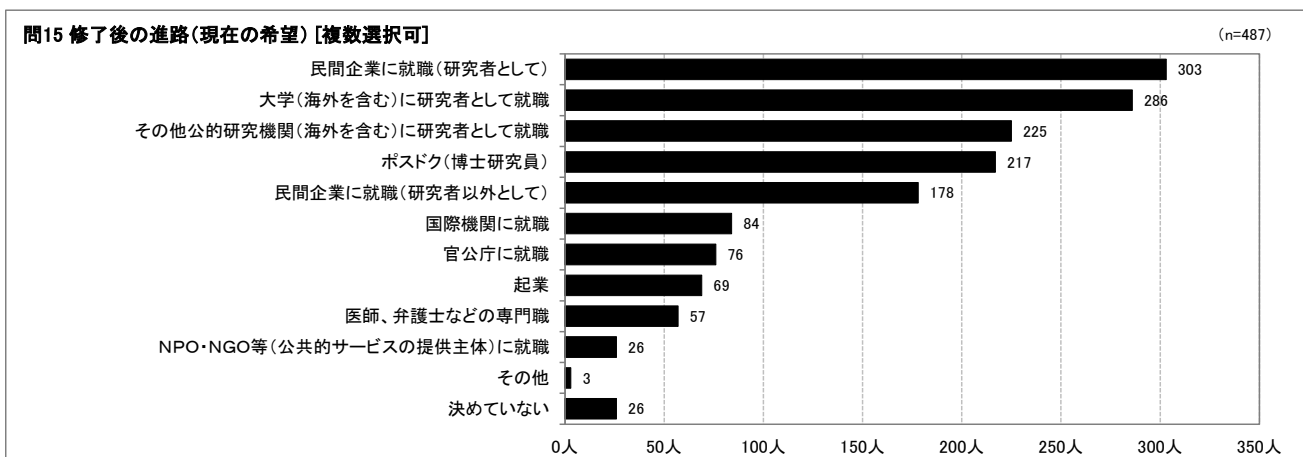


図 16 アンケート回答時点での修了後の進路の希望 (n=487)

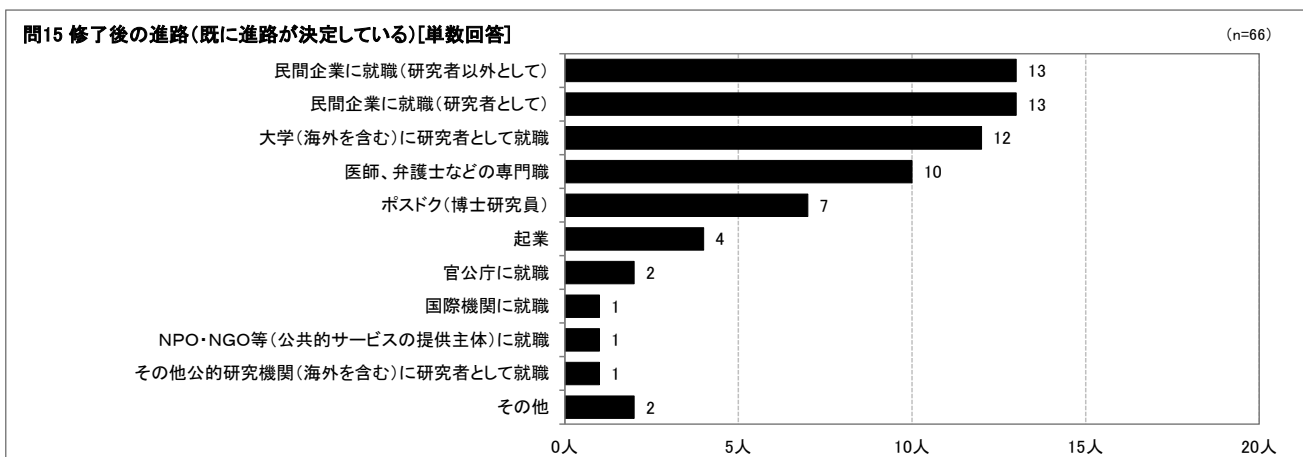
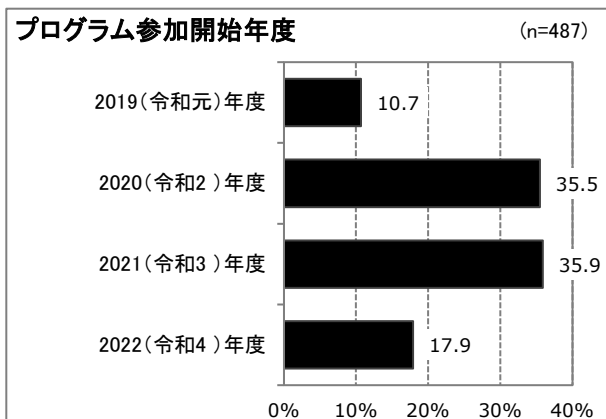
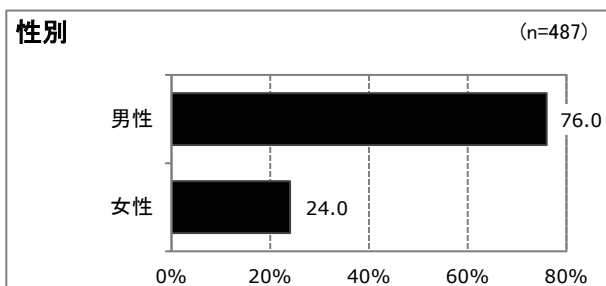
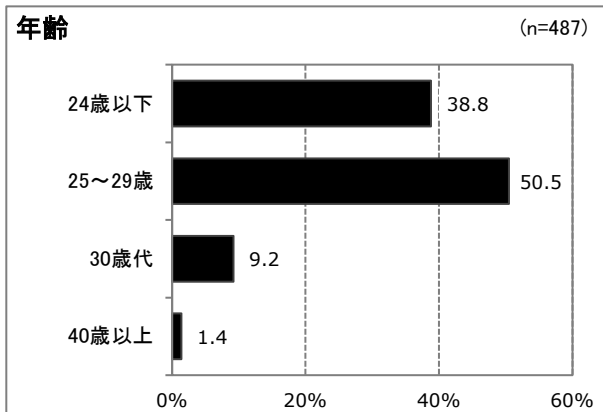


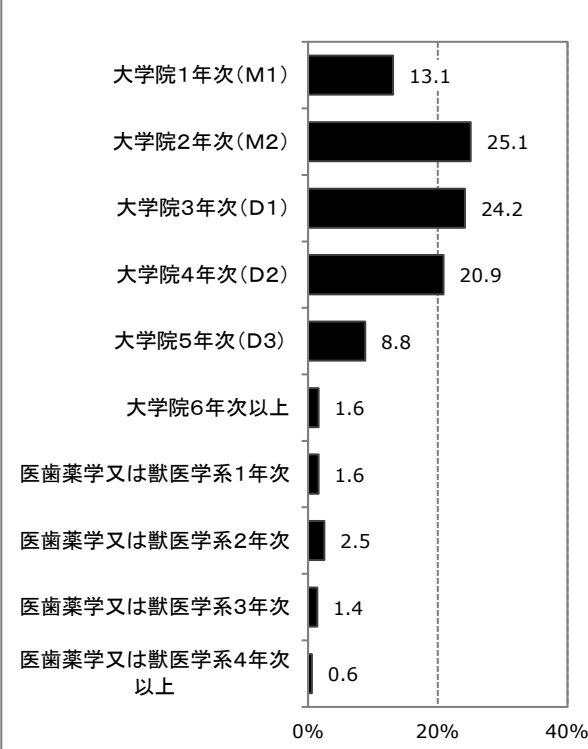
図 17 既に決定している進路 (n=66)

11. 学生の属性（問2, 3, 4, 5）

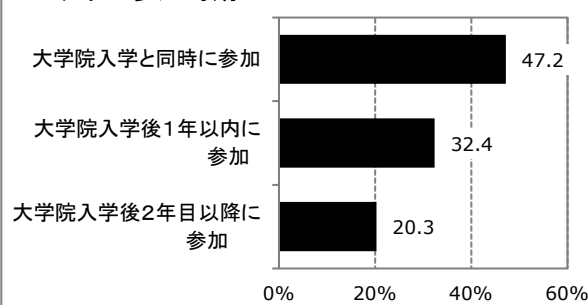
本項目では、アンケートを回答した学生の属性について、各回答を選択した割合を掲載する。



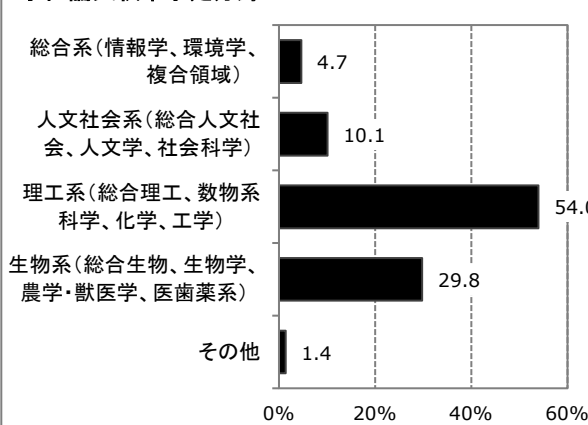
現在の学年 (n=487)

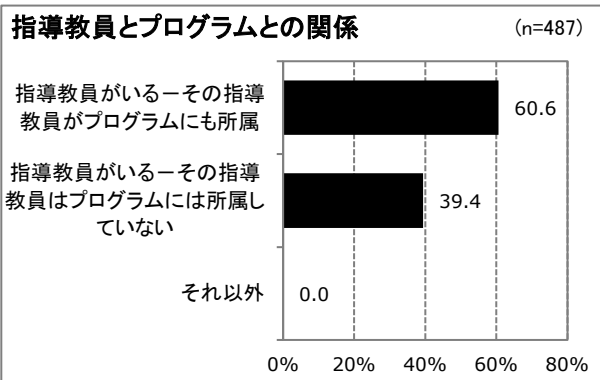
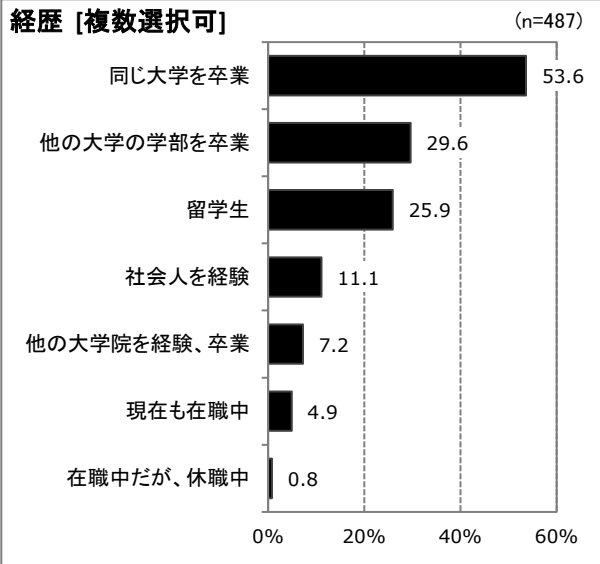


プログラム参加時期 (n=487)



学位論文執筆予定分野 (n=487)





12. プログラム情報の獲得方法（問19）

本項目では、プログラムをどのようにして知ったかについて、回答を選択した人数を掲載する。なお、本項目は任意回答としている。（図18）

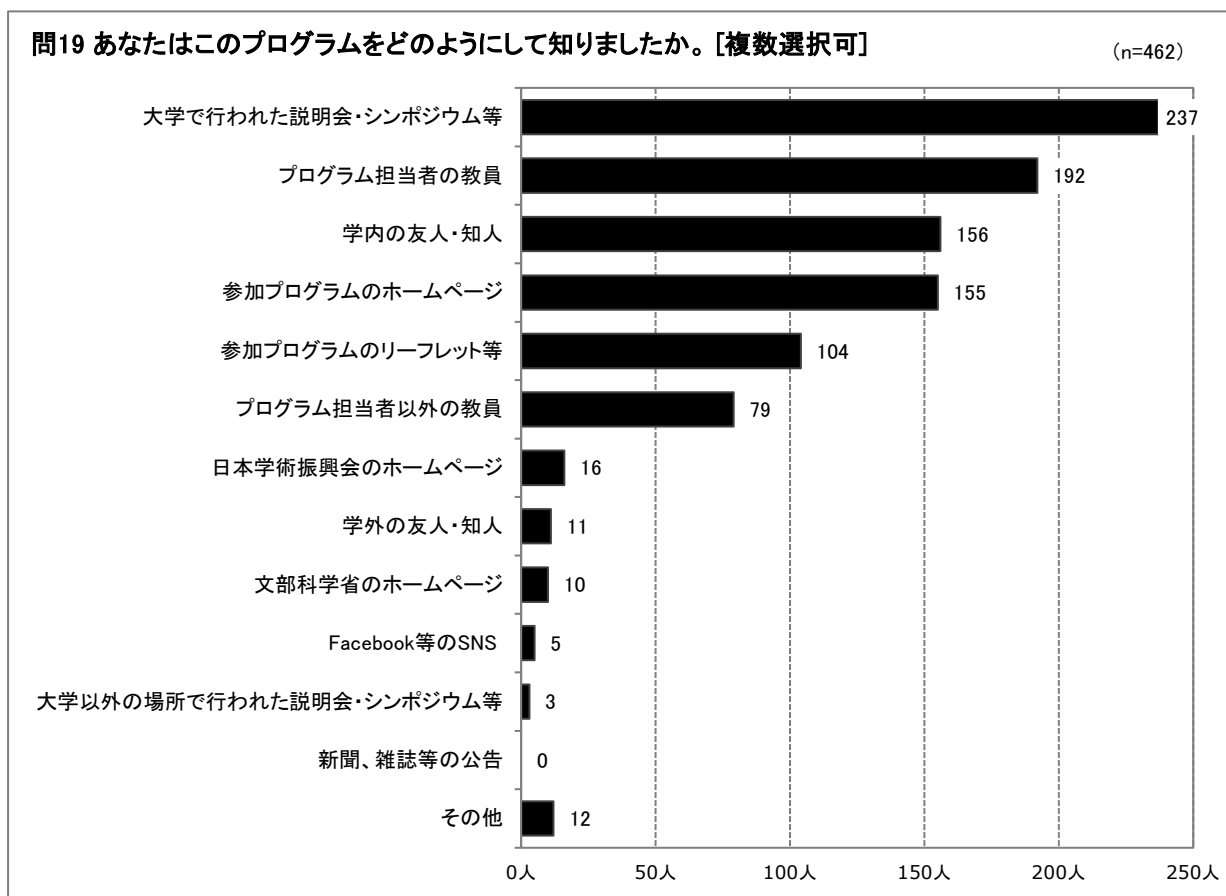


図18 プログラム情報の獲得方法 (n=462)

第2部 プログラム担当者アンケート調査結果

1. プログラムへの関与（問3）

学位プログラムに属する学生の研究指導、学位審査等の質保証を担当し、あるいは履修支援、キャリア形成などを総括しプログラムの実施を責任ある立場で主体的に担う常勤または非常勤の者（以下、プログラム担当者）に対し、本事業への申請時に想定されていたエフォートと、令和3年度の実績としてのエフォートを聞いている（図19）。

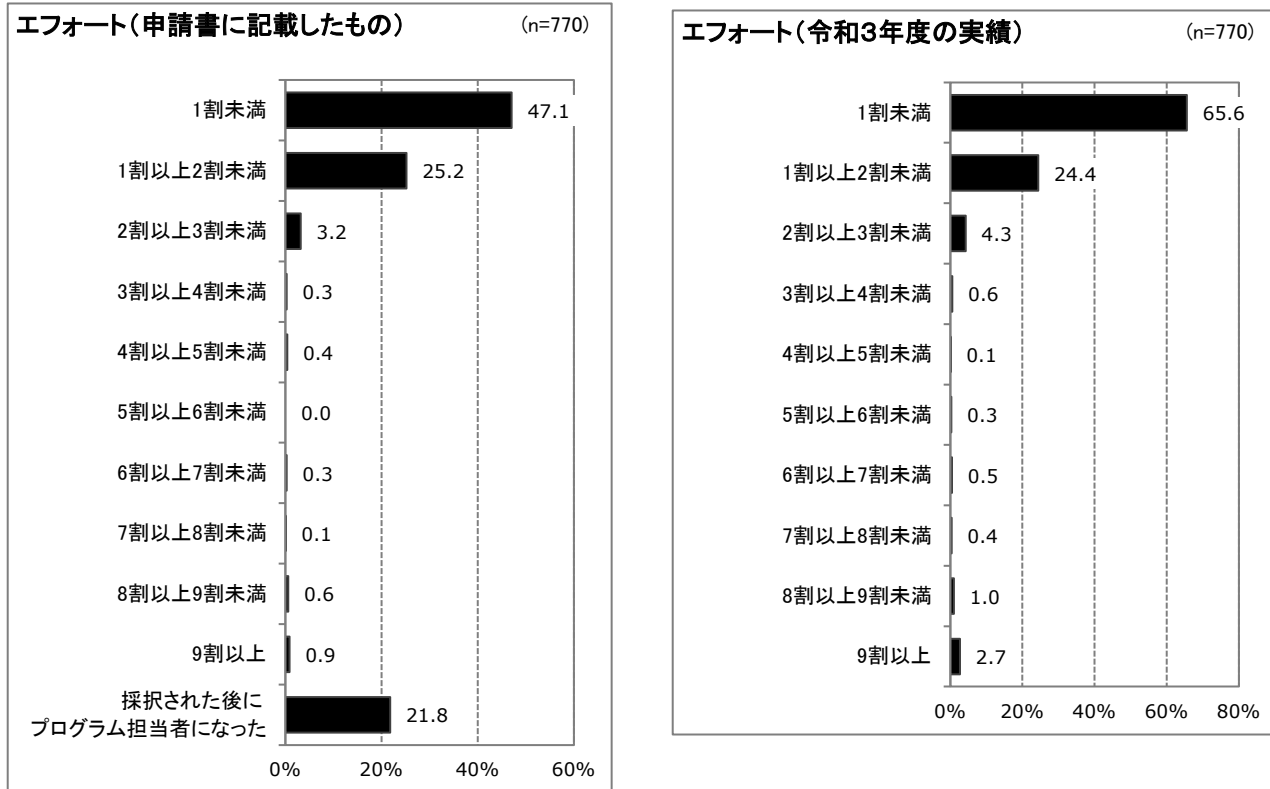


図19 申請時の想定と令和2年度実績のエフォート (n=770)

2. 指導の内容（問5）

プログラム担当者に対し、どのような指導を行っているか（図20）、また行っている場合はその有効性について聞いている（図21）。

行っている指導

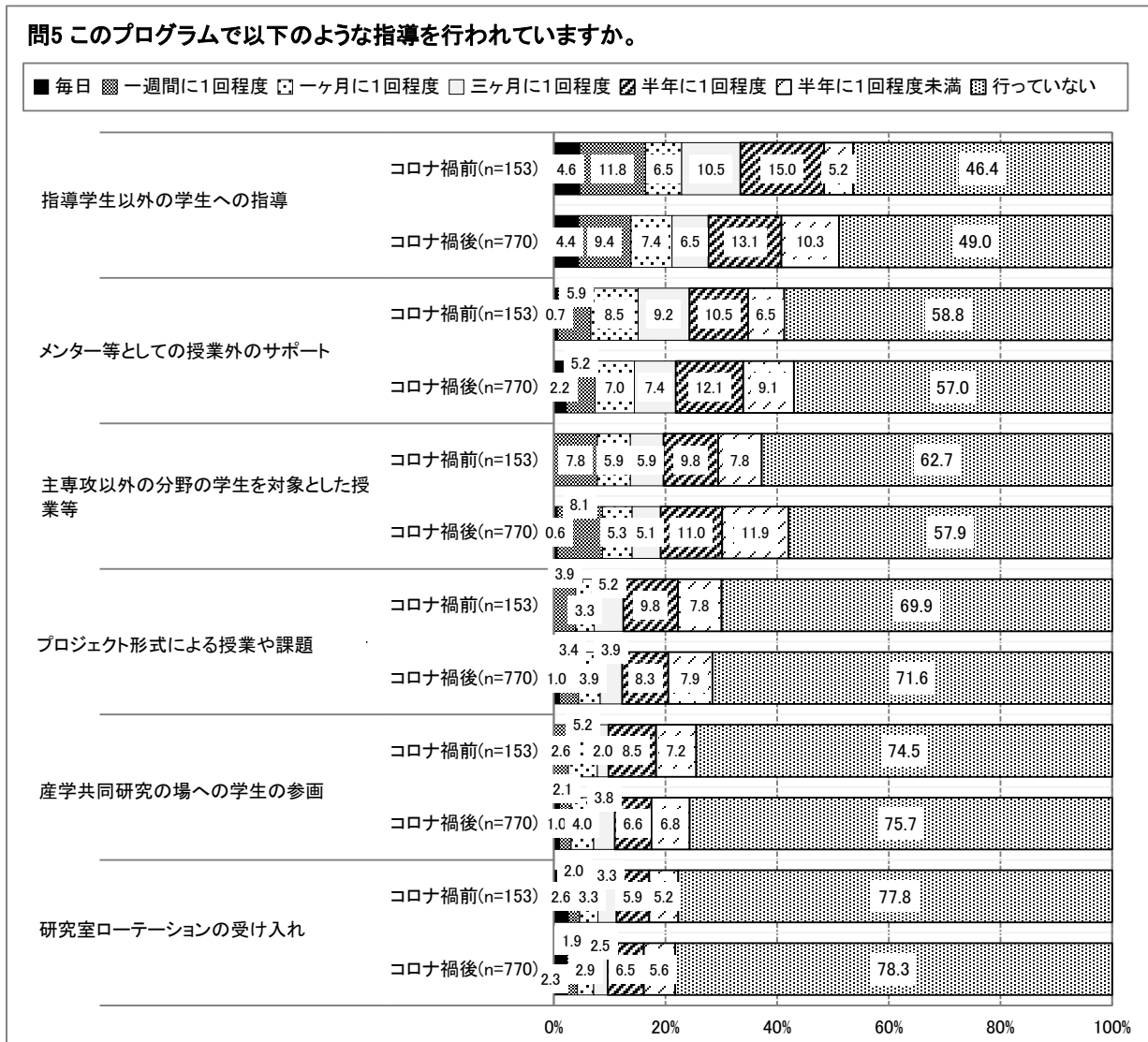


図20 プログラムで担当している指導等（コロナ禍前 n=153、コロナ禍後 n=770）

指導の有効性

<「よく行っている」「行っている」を選択した場合のみ回答>

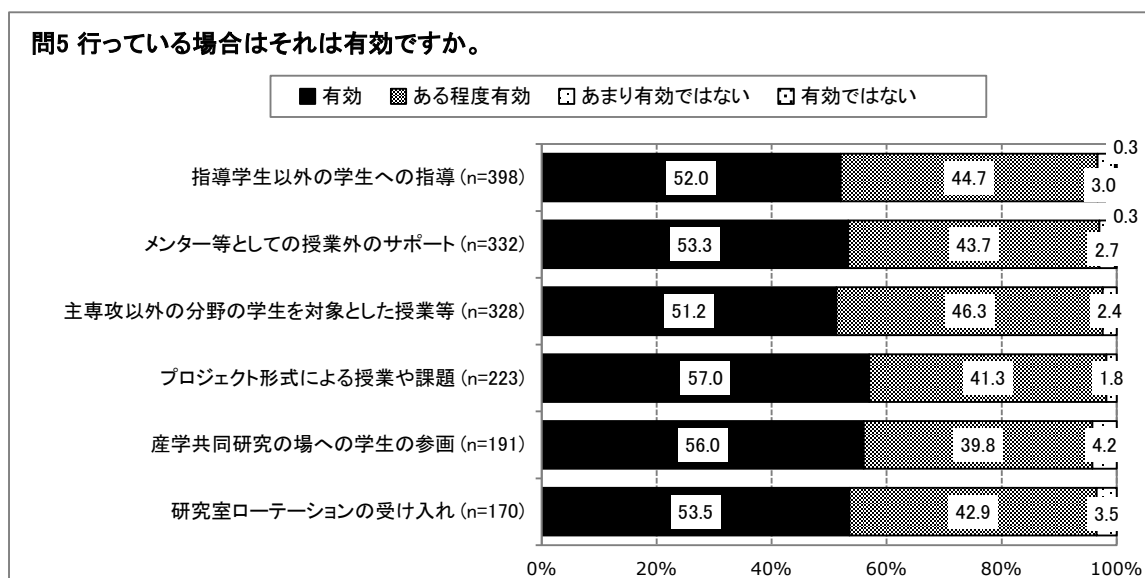


図 21 指導の有効性

3. 実施されたプログラムと整備された環境（問6）

本プログラム内で学生のために実施されたプログラムや整備された環境について、それが十分実施（整備）されていると感じているか（図22）、また「されている」を選択した場合にはそれが有効と考えているかについて聞いている（図23）。

プログラムの実施及び環境の整備状況

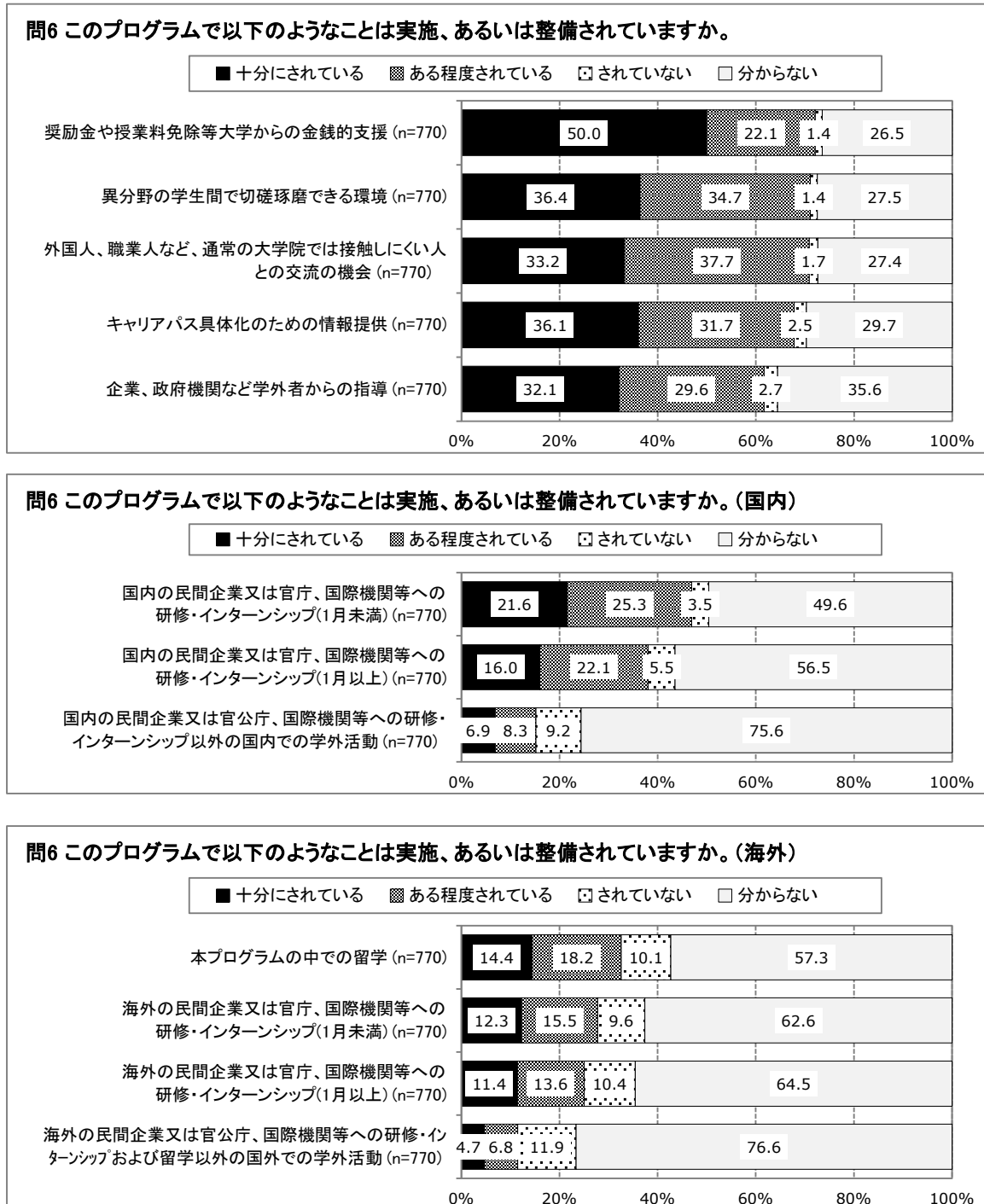


図22 プログラムの実施や環境の整備状況 (n=770)

実施されたプログラムと整備された環境の有効性

<「分からない」以外を選択した場合のみ回答>

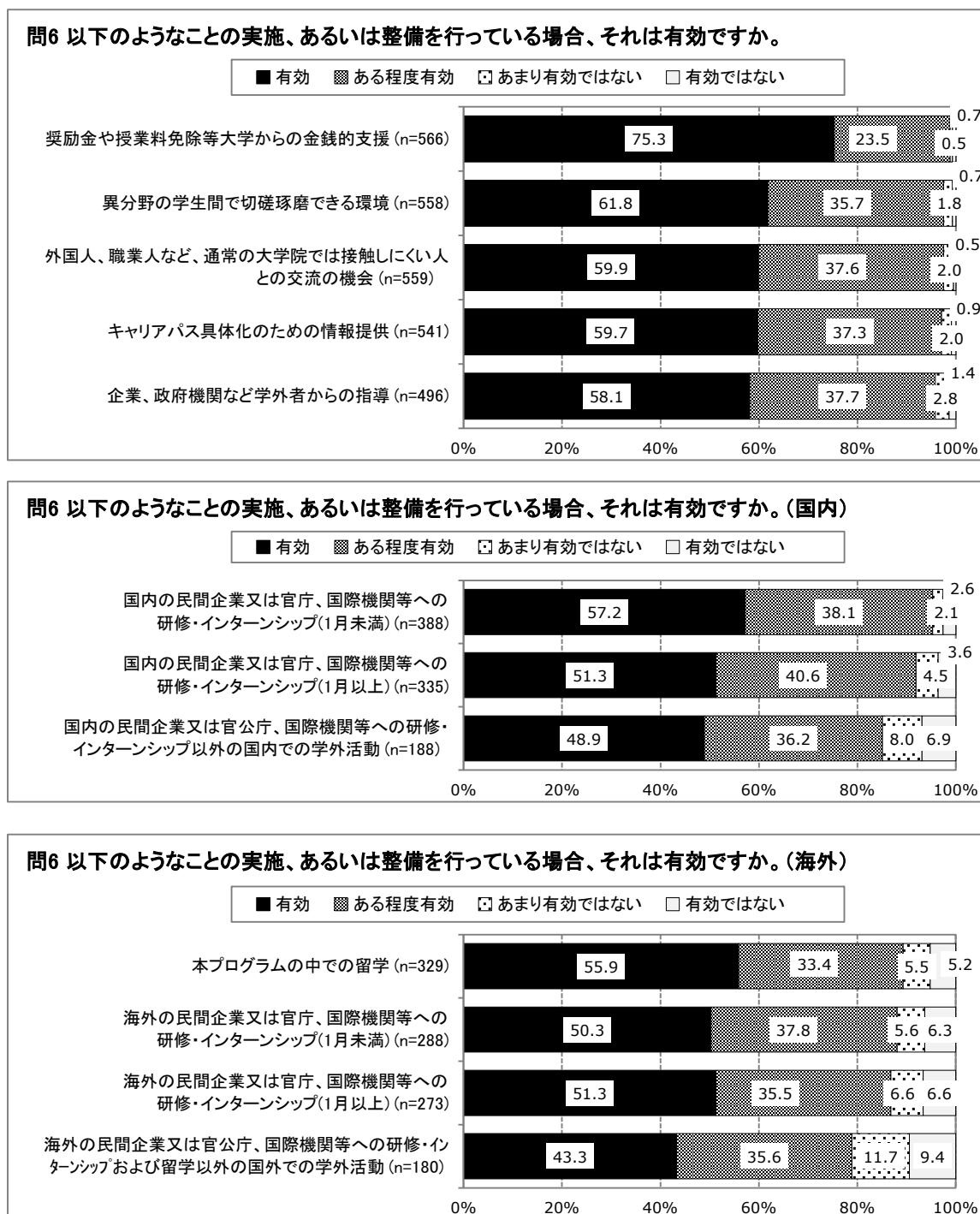


図 23 実施されたプログラムと整備された環境の有効性

4. プログラムの有効性（問7）

各プログラムに参画することにより、学生に各能力を身に付けさせることができるか、その有効性を聞いて
いる（図24）。

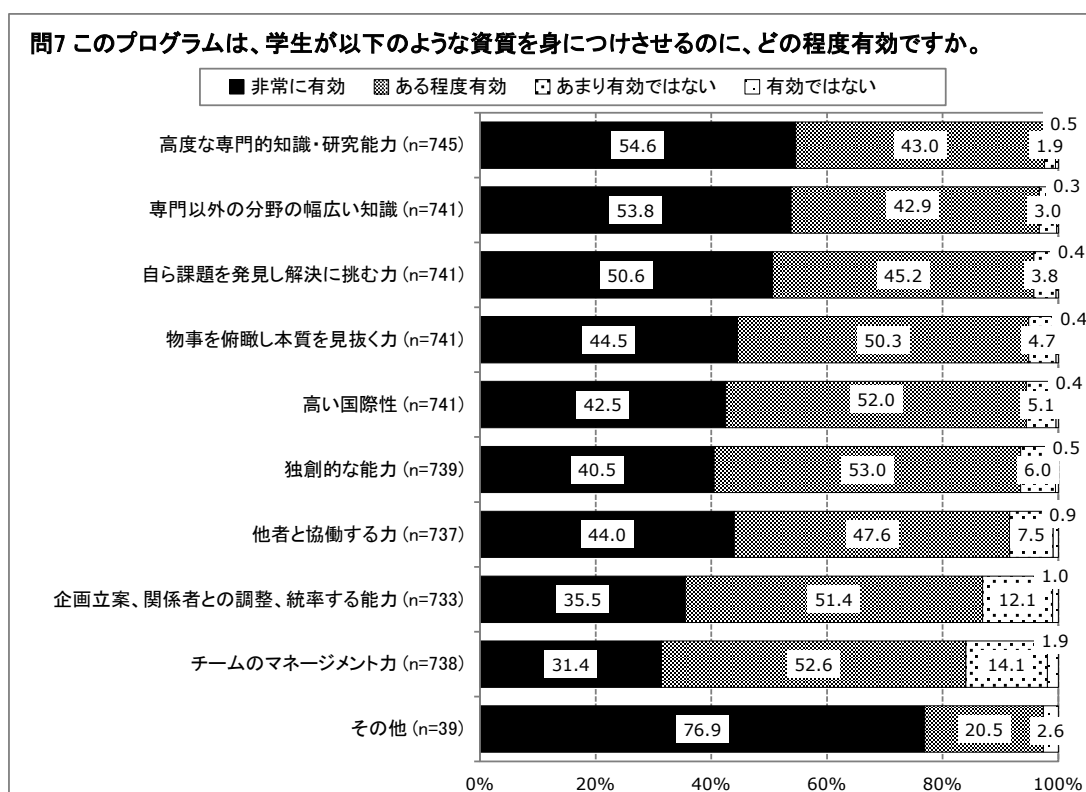


図24 学生へ能力を身に付けさせるためのプログラムの有効性

5. 運営・管理（問8）

プログラムの運営・管理の面についての印象をプログラム担当者へ聞いている（図25）。

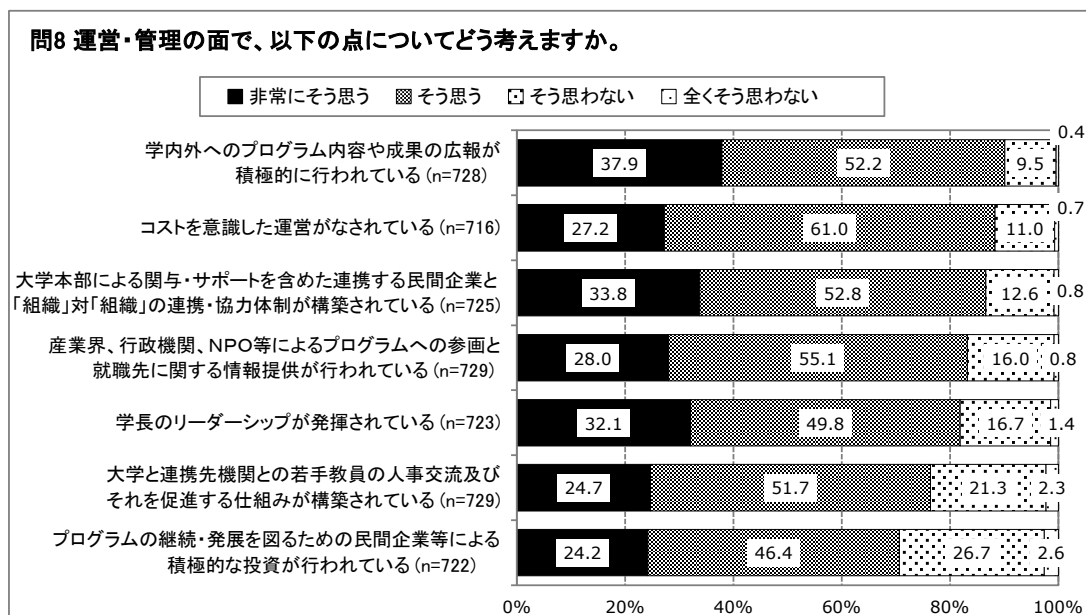


図25 運営・管理の面での印象

6. プログラムに対する印象（問9）

プログラムに参加している学生やプログラムの将来展望などを含めた、プログラムの印象を聞いている（図26）。

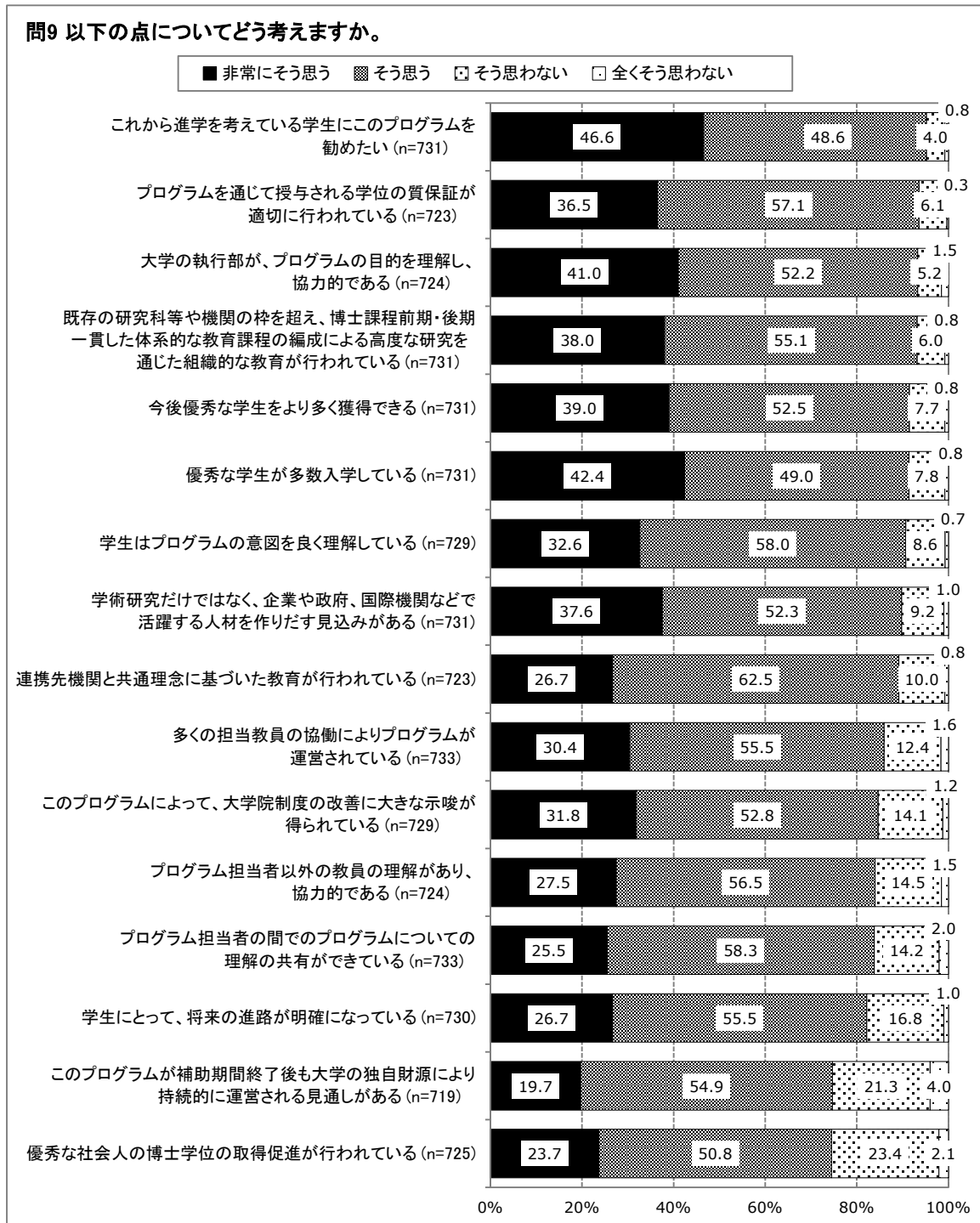


図 26 プログラムに対する印象

7. 指導・支援の改善のための評価等の実施（問10）

プログラムで担当する指導・支援方法の改善のため、学生等による評価やアンケートを行っているか聞いている（図27）。

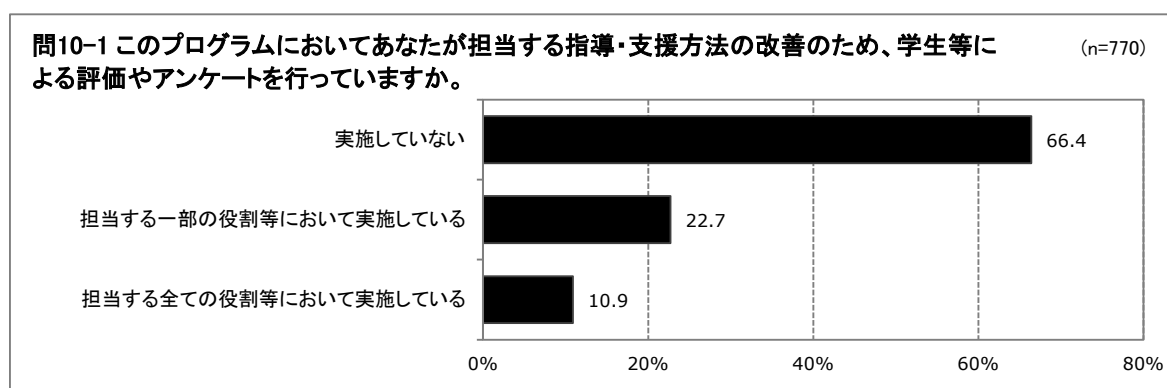


図27 指導・支援の改善のための評価等の実施 (n=770)

8. 学生への効果・負担（問11）

学生への効果や負担等について聞いている（図28）。

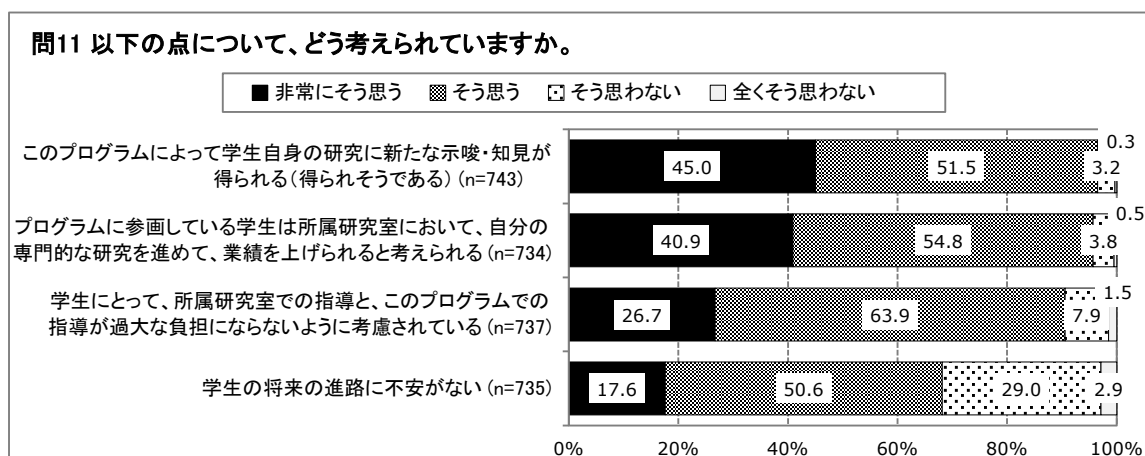
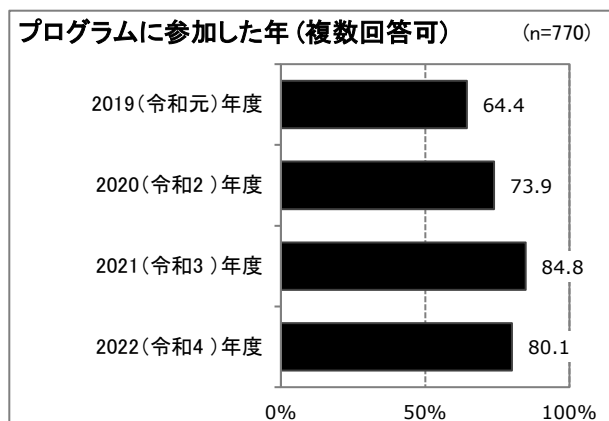
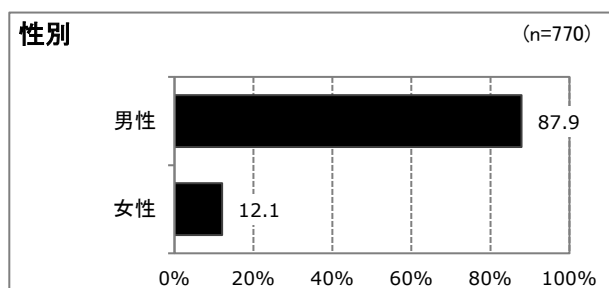
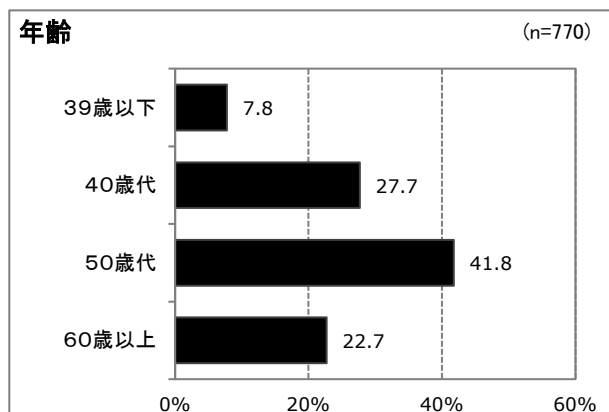


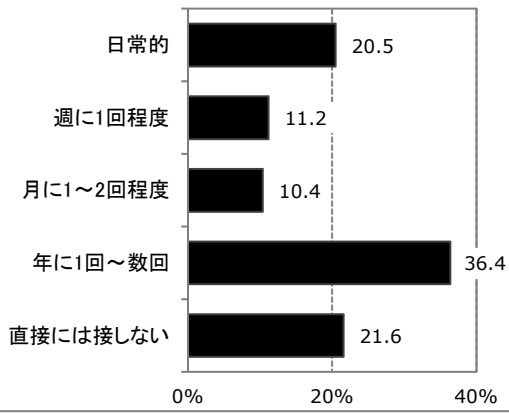
図28 学生への効果・負担等

9. 参加教員の属性（問2，3，4）

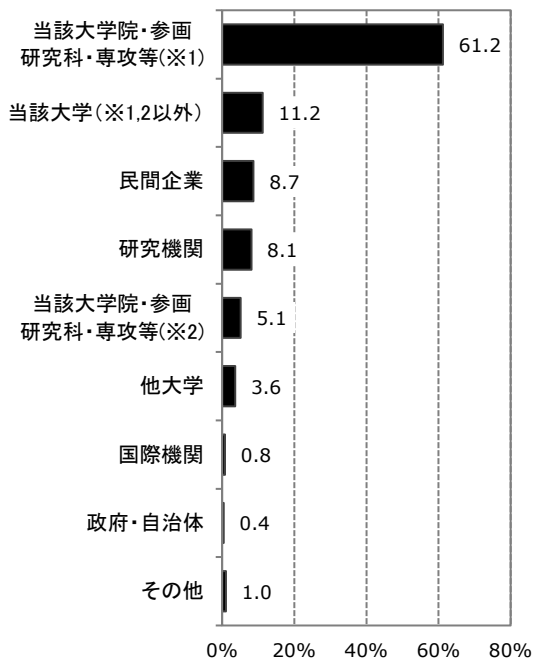
本項目ではアンケートに回答したプログラム担当者の属性について、各回答を選択した割合を掲載する。



本プログラムの学生に直接に接する頻度 (n=770)



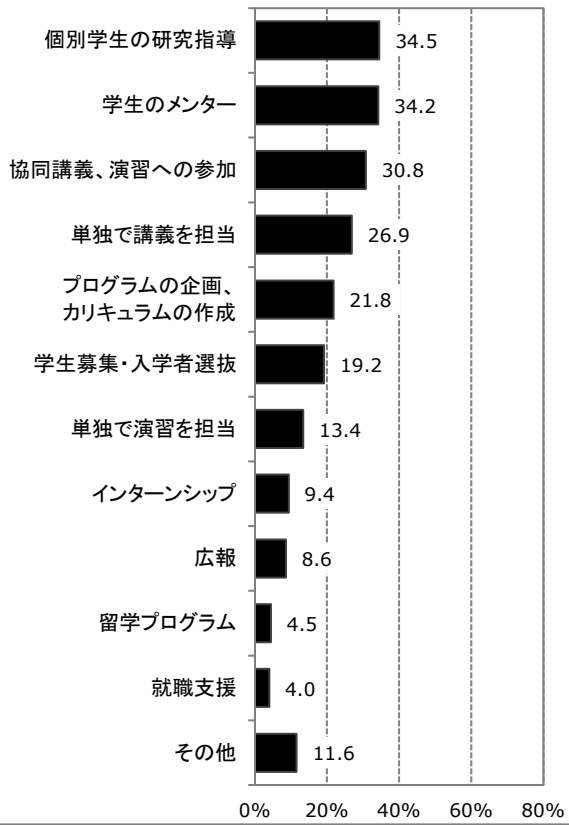
所属(本務) (n=770)



※1: プログラムの経費により雇用されている者を除く
 ※2: プログラムの経費による雇用

プログラム内の担当（複数回答可）

(n=770)



附録A サンプルと回答者数

	機関名	プログラム名称	学生			プログラム担当者		
			対象者	回答者	回答率	対象者	回答者	回答率
1901	東北大学	変動地球共生学卓越大学院プログラム	56	51	91.1%	85	75	88.2%
1902	千葉大学	アジアユーラシア・グローバルリーダー養成のための臨床人文 学教育プログラム	19	17	89.5%	62	52	83.9%
1903	千葉大学	革新医療創生CHIBA卓越大学院	33	31	93.9%	62	51	82.3%
1904	東京大学	変革を駆動する先端物理・数学プログラム	144	136	94.4%	111	81	73.0%
1905	東京大学	先端ビジネスロー国際卓越大学院プログラム	38	31	81.6%	52	44	84.6%
1906	東京工業大学	最先端量子科学に基づく超スマート社会エンジニアリング教育プロ グラム	54	48	88.9%	118	100	84.7%
1907	東京海洋大学	海洋産業A I プロフェッショナル育成卓越大学院プログラム	14	14	100.0%	48	40	83.3%
1908	金沢大学	ナノ精密医学・理工学 卓越大学院プログラム	42	39	92.9%	76	64	84.2%
1909	名古屋大学	情報・生命医科学コンボリューション on グローカルアライア ンス卓越大学院	44	43	97.7%	104	98	94.2%
1910	京都大学	メディカルイノベーション大学院プログラム	58	51	87.9%	99	76	76.8%
1911	大阪大学	多様な知の協奏による先導的量子ビーム応用卓越大学院プロ グラム	28	26	92.9%	130	89	68.5%
卓越大学院プログラム中間評価総計			530	487	91.9%	947	770	81.3%

卓越大学院プログラム
令和元年度採択プログラム中間評価
学生アンケート調査

- この調査は卓越大学院プログラム（注）の令和元年度採択プログラムの中間評価の一環として実施するものです。採択されたプログラムに参加する皆さん（大学により各プログラムに選抜された学生）にご意見をうかがい、各プログラムの評価・改善に役立てると同時に、文部科学省の施策の検討の参考とします。
- いただいた回答はすべて統計的に処理され、個人についての情報が他の目的で使われることはありません。調査結果については、プログラムの改善に資するため、記入した個人が特定されないよう固有名詞の削除や複数の類似意見の統合などの処理を行った上で、当該大学に対し情報提供を行うとともに、集計結果を個人等が特定されない範囲で公表することもあります。

注 <卓越大学院プログラムとは>

「卓越大学院プログラム(WISE Program : Doctoral Program for World-leading Innovative & Smart Education)」(以下「本事業」という。)は、新たな知の創造と活用を主導し、次代を牽引する価値を創造するとともに、社会的課題の解決に挑戦して、社会にイノベーションをもたらすことができる博士人材(高度な「知のプロフェッショナル」)を育成することを目的とする事業です。

本事業により、これまで行われてきた世界的課題を解決するグローバルリーダーの育成に加え、今後はさらに、世界の学術を牽引する卓越した研究者や、知を社会に実装することを主導する起業家、イノベーションをリードする企業人、国内外のパブリック・セクターにおいて政策立案をリードする人材など、俯瞰力及び独創力並びに高度な専門性を備え、大学や研究機関、民間企業、公的機関等のそれぞれのセクターを牽引する卓越した博士人材、すなわち、高度な「知のプロフェッショナル」をあらゆるセクターに対し輩出することが期待されています。

参加されているプログラムと、御自身についてうかがいます

I. 回答者の属性

問1 参加している大学・プログラム名・プログラムの設定する領域について、以下に表示されている内容を確認してください。

全体

問2 年齢、性別について選択してください。

年齢 (n=487)	1. 24歳以下	2. 25～29歳	3. 30歳代	4. 40歳以上
	189人 38.8%	246人 50.5%	45人 9.2%	7人 1.4%

性別 (n=487)	1. 女性	2. 男性
	117人 24.0%	370人 76.0%

問3 プログラムとの関係

プログラムに参加した年 (n=487)	1. 2019 (令和元) 年度	2. 2020 (令和2) 年度	3. 2021 (令和3) 年度	4. 2022 (令和4) 年度
	52人 10.7%	173人 35.5%	175人 35.9%	87人 17.9%

現在の学年 (n=487)	1. 大学院1年次 (M1)	2. 大学院2年次 (M2)	3. 大学院3年次 (D1)	4. 大学院4年次 (D2)	5. 大学院5年次 (D3)
	64人 13.1%	122人 25.1%	118人 24.2%	102人 20.9%	43人 8.8%
	6. 大学院6年次以上	7. 医歯薬学又は獣医学系1年次	8. 医歯薬学又は獣医学系2年次	9. 医歯薬学又は獣医学系3年次	10. 医歯薬学又は獣医学系4年次以上
	8人 1.6%	8人 1.6%	12人 2.5%	7人 1.4%	3人 0.6%

入学時からこのプログラムに参加したか (n=487)	1. 大学院入学と同時に参加	2. 大学院入学後1年以内に参加	3. 大学院入学後2年目以降に参加
	230人 47.2%	158人 32.4%	99人 20.3%

学位論文の執筆を予定している分野 (n=487)	1. 総合系 (情報学、環境学、複合領域)	2. 人文社会系 (総合人文社会、人文学、社会科学)	3. 理工系 (総合理工、数物系科学、化学、工学)	4. 生物系 (総合生物、生物学、農学・獣医学、医歯薬系)	5. ほか
	23人 4.7%	49人 10.1%	263人 54.0%	145人 29.8%	7人 1.4%

問4 経歴についてあてはまるものすべてにチェックしてください。(n=487)

1	同じ大学を卒業	261人 53.6%
2	留学生	126人 25.9%
3	他の大学の学部を卒業	144人 29.6%
4	他の大学院を経験、卒業	35人 7.2%

5	社会人を経験	54人 11.1%
6	現在も在職中	24人 4.9%
7	在職中だが、休職中	4人 0.8%

問5 指導教員（専門分野における研究指導を主に行う教員1名）と、プログラムとの関係（あてはまるものに○）(n=487)

1	指導教員がいる — その指導教員がプログラムにも所属	295人 60.6%
2	指導教員がいる — その指導教員はプログラムには所属していない	192人 39.4%
3	それ以外	0人 0.0%

↓
具体的に書いてください

Ⅱ. 事業趣旨の理解

問6 本事業の目的（1ページ「卓越大学院プログラムとは」を参照）に沿って、大学はプログラムを実施していますが、本事業の趣旨を知っていましたか。(n=487)

1	知っていた	473人 97.1%
2	知らなかった	14人 2.9%

上記を選択した理由などについて自由に記述してください。

Ⅲ. プログラムへの参加動機

問7-1 あなたがこのプログラムに参加した動機として、あてはまるもの全てにチェックしてください。また、その中で最も直接的な動機に近いもの1つに○をしてください。

	当てはまるもの 全てにチェック (n=487)	最も近いもの 1つに○ (n=487)
プログラムの目的と自分の目指す将来像が合っている	347人 71.3%	66人 13.6%
大学や研究機関、民間企業、公的機関への就職など自分の将来の可能性が広がる	344人 70.6%	66人 13.6%
通常の博士課程では得られない、幅広い知識や経験が得られる	395人 81.1%	89人 18.3%
通常の博士課程では得られない、独創力を培うことができる	215人 44.1%	8人 1.6%
通常の博士課程では得られない、高度な専門性が得られる	191人 39.3%	9人 1.8%
他の研究科（専攻）の学生や教員、留学生など、交流の幅が広がる	351人 72.1%	21人 4.3%
留学や海外インターンシップなど、海外での経験が積める	246人 50.5%	18人 3.7%
グローバルな舞台で活躍していくために、Ph.D.が必要	220人 45.2%	15人 3.1%
経済的な支援が充実している	398人 81.7%	168人 34.5%
友人・知人や研究室の先輩など、教員以外の人にプログラムを勧められた	130人 26.7%	1人 0.2%
指導教員などの教員に勧められた（自分の意志で参加）	272人 55.9%	16人 3.3%
指導教員などの教員に勧められた（断ることができなかった）	12人 2.5%	1人 0.2%
何となく面白そうだった	210人 43.1%	9人 1.8%

その他の理由がある場合や、上記を選択した理由などについて自由に記述してください。

IV. プログラムがなかった場合の経歴

問7-2 このプログラムがなかった場合、あなたの最終学位としてどれを選択していましたか。(n=487)

1	学士（今所属する大学と同じ）	8人 1.6%	5	修士（他大学）	12人 2.5%
2	学士（他大学）	9人 1.8%	6	博士（今所属する大学と同じ研究科・専攻等）	287人 58.9%
3	修士（今所属する大学と同じ研究科・専攻等）	137人 28.1%	7	博士（今所属する大学の別の研究科または専攻等）	7人 1.4%
4	修士（今所属する大学の別の研究科または専攻等）	8人 1.6%	8	博士（他大学）	19人 3.9%

V. プログラムの内容に対する評価

問8 プログラムの以下のような点をどのように評価されますか。

	非常に良い	良い	どちらとも言えない	良いとは言えない	機会がなかった
他の専門分野の学生との交流 (n=487)	170人 34.9%	201人 41.3%	70人 14.4%	23人 4.7%	23人 4.7%
他大学の学生との交流 (n=487)	55人 11.3%	99人 20.3%	139人 .	43人 8.8%	151人 31.0%
専門分野以外の教員との出会い (n=487)	186人 38.2%	216人 44.4%	48人 9.9%	25人 5.1%	12人 2.5%
企業人との交流 (n=487)	112人 23.0%	171人 35.1%	103人 21.1%	38人 7.8%	63人 12.9%
専門分野以外の幅広い知識や経験 (n=487)	203人 41.7%	187人 38.4%	72人 14.8%	17人 3.5%	8人 1.6%
自身の専門分野をより深く学ぶ機会 (n=487)	138人 28.3%	163人 33.5%	123人 25.3%	39人 8.0%	24人 4.9%
奨励金などの経済的支援 (n=487)	272人 55.9%	143人 29.4%	32人 6.6%	22人 4.5%	18人 3.7%
議論することに対する自信をつけること (n=487)	126人 25.9%	188人 38.6%	135人 27.7%	20人 4.1%	18人 3.7%
アカデミアの分野で活躍することについての自信を付けること (n=487)	117人 24.0%	196人 40.2%	131人 26.9%	22人 4.5%	21人 4.3%
アカデミア以外の分野で活躍することについての自信をつけること (n=487)	85人 17.5%	200人 41.1%	147人 30.2%	27人 5.5%	28人 5.7%
インターンシップの機会 (n=487)	92人 18.9%	141人 29.0%	125人 25.7%	29人 6.0%	100人 20.5%
留学の機会 (n=487)	101人 20.7%	139人 28.5%	112人 23.0%	22人 4.5%	113人 23.2%

問9 問8の項目以外にプログラムの評価できる点、できない点を自由に記述してください。

プログラムでの実施状況について感想をうかがいます

VI. プログラムで受けた指導とその有効性

問10 このプログラムで、下のような指導を受けましたか。また受けた場合、それは有効ですか。

新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前後のそれぞれについて回答してください。

※2020（令和2）年度以降に入学した学生は「コロナ禍前」に関する質問には回答不要です。

<人的な指導>

		どの程度の頻度で受けたか							有効か			
		毎日	一週間に1回程度	一ヶ月に1回程度	三ヶ月に1回程度	半年に1回程度	半年に1回程度未満	受けていない	有効	ある程度有効	あまり有効ではない	有効ではない
副指導教員など指導教員以外の教員からの指導	コロナ禍前 (n=52)	0人 0.0%	1人 1.9%	3人 5.8%	3人 5.8%	26人 50.0%	2人 3.8%	17人 32.7%	199人 55.6%	135人 37.7%	18人 5.0%	6人 1.7%
	コロナ禍後 (n=487)	11人 2.3%	58人 11.9%	61人 12.5%	63人 12.9%	149人 30.6%	15人 3.1%	130人 26.7%				

上記の理由を記入してください（研究面、生活面、修了後の進路面 など）

		どの程度の頻度で受けたか							有効か			
		毎日	一週間に1回程度	一ヶ月に1回程度	三ヶ月に1回程度	半年に1回程度	半年に1回程度未満	受けていない	有効	ある程度有効	あまり有効ではない	有効ではない
企業、政府機関など学外者からの指導、助言	コロナ禍前 (n=52)	0人 0.0%	0人 0.0%	3人 5.8%	6人 11.5%	6人 11.5%	1人 1.9%	36人 69.2%	75人 45.7%	81人 49.4%	6人 3.7%	2人 1.2%
	コロナ禍後 (n=487)	2人 0.4%	13人 2.7%	34人 7.0%	31人 6.4%	53人 10.9%	30人 6.2%	324人 66.5%				

上記の理由を記入してください（研究面、生活面、修了後の進路面 など）

		どの程度の頻度で受けたか							有効か			
		毎日	一週間に1回程度	一ヶ月に1回程度	三ヶ月に1回程度	半年に1回程度	半年に1回程度未満	受けていない	有効	ある程度有効	あまり有効ではない	有効ではない
メンター等 による授業 外のサポート	コロナ 禍前 (n=52)	0人 0.0%	0人 0.0%	2人 3.8%	1人 1.9%	7人 13.5%	2人 3.8%	40人 76.9%	112人 49.3%	95人 41.9%	18人 7.9%	2人 0.9%
	コロナ 禍後 (n=487)	1人 0.2%	27人 5.5%	31人 6.4%	45人 9.2%	93人 19.1%	29人 6.0%	261人 53.6%				



上記の理由を記入してください（研究面、生活面、修了後の進路面 など）

<機会の提供>

		どの程度の頻度で受けたか ※							有効か			
		毎日	一週間に1回程度	一ヶ月に1回程度	三ヶ月に1回程度	半年に1回程度	半年に1回程度未満	受けていない	有効	ある程度有効	あまり有効ではない	有効ではない
産学共同研究の場への参画	コロナ禍前 (n=52)	0人 0.0%	0人 0.0%	7人 13.5%	3人 5.8%	4人 7.7%	2人 3.8%	36人 69.2%	97人 53.3%	78人 42.9%	5人 2.7%	2人 1.1%
	コロナ禍後 (n=487)	2人 0.4%	15人 3.1%	29人 6.0%	45人 9.2%	57人 11.7%	33人 6.8%	306人 62.8%				
主専攻以外の分野の授業等の履修	コロナ禍前 (n=52)	0人 0.0%	18人 34.6%	4人 7.7%	4人 7.7%	4人 7.7%	5人 9.6%	17人 32.7%	229人 56.8%	158人 39.2%	12人 3.0%	4人 1.0%
	コロナ禍後 (n=487)	9人 1.8%	184人 37.8%	81人 16.6%	40人 8.2%	60人 12.3%	22人 4.5%	91人 18.7%				
研究室ローテーション ※ 名称は問わない (他研究室に一定期間滞在するなど、異分野の専門的な知識を身に付ける機会を指す。)	コロナ禍前 (n=52)	1人 1.9%	2人 3.8%	2人 3.8%	1人 1.9%	0人 0.0%	0人 0.0%	46人 88.5%	128人 70.7%	47人 26.0%	6人 3.3%	0人 0.0%
	コロナ禍後 (n=487)	15人 3.1%	41人 8.4%	43人 8.8%	25人 5.1%	31人 6.4%	26人 5.3%	306人 62.8%				
プロジェクト形式による授業や課題	コロナ禍前 (n=52)	0人 0.0%	6人 11.5%	0人 0.0%	3人 5.8%	3人 5.8%	5人 9.6%	35人 67.3%	138人 51.3%	117人 43.5%	11人 4.1%	3人 1.1%
	コロナ禍後 (n=487)	2人 0.4%	76人 15.6%	63人 12.9%	37人 7.6%	50人 10.3%	38人 7.8%	221人 45.4%				
キャリアパス具体化のための情報提供 例：産学共同研究、産業界等の講師を招いたセミナー等	コロナ禍前 (n=52)	0人 0.0%	4人 7.7%	4人 7.7%	3人 5.8%	10人 19.2%	5人 9.6%	26人 50.0%	145人 53.1%	107人 39.2%	18人 6.6%	3人 1.1%
	コロナ禍後 (n=487)	2人 0.4%	33人 6.8%	65人 13.3%	60人 12.3%	61人 12.5%	51人 10.5%	215人 44.1%				

※「研究室ローテーション」については、実施した期間について、左から、「1年のうち1週間程度」「1年のうち2週間程度」「1年のうち1ヶ月程度」「1年のうち2ヶ月程度」「1年のうち3ヶ月程度」「1年のうち半年程度」「受けていない」と置き換えて選択

上の理由や特に有効又は有効でないと思ったことがあれば自由に記述してください。

新型コロナウイルス感染症の影響により、当初に予定されていた実施方法とは別の方法により代替して行われた指導等があれば、その内容を記述してください。

VII. 修学環境の整備とその有効性

問11A. このプログラムで、下のようなことは整備され、経験していますか。またそれは有効に機能していますか。(それぞれ該当する回答をクリック)

	整備されている			有効か			
	十分に されている	ある程度 されている	不十分	有効	ある程度 有効	あまり有 効ではな い	有効では ない
奨励金や授業料の補助等大学からの金銭的支援 (n=487)	297人 61.0%	152人 31.2%	38人 7.8%	325人 66.7%	123人 25.3%	24人 4.9%	15人 3.1%
異分野の学生間で切磋琢磨できる環境 例：学生が交流するスペース、合同のセミナー等 (n=487)	207人 42.5%	220人 45.2%	60人 12.3%	207人 42.5%	207人 42.5%	40人 8.2%	33人 6.8%
外国人、職業人など、通常の大学院では接触しにくい人との交流の機会 (n=487)	170人 34.9%	232人 47.6%	85人 17.5%	181人 37.2%	205人 42.1%	57人 11.7%	44人 9.0%
学生のみでプロジェクト等を企画・運営する機会 (n=487)	120人 24.6%	229人 47.0%	138人 28.3%	141人 29.0%	194人 39.8%	81人 16.6%	71人 14.6%
QE(Qualifying Examination)などによる審査の機会 (n=487)	268人 55.0%	169人 34.7%	50人 10.3%	212人 43.5%	208人 42.7%	39人 8.0%	28人 5.7%
英語による授業、指導、QE等の機会 (n=487)	255人 52.4%	180人 37.0%	52人 10.7%	232人 47.6%	185人 38.0%	43人 8.8%	27人 5.5%

上の理由や特に有効と思ったことがあれば自由に記述してください。

VII プログラムでの経験とその有効性

問11B. このプログラムの枠によって、下のことを経験しましたか、また経験した場合それは有効でしたか。

(※プログラムのカリキュラムに以下の制度・取組がない場合は「修了まで参加の予定はない」をチェックしてください。)

	経験したか			有効か（「参加した」を選択した場合のみ回答してください）			
	参加した	これから参加	修了まで参加の予定はない	有効	ある程度有効	あまり有効ではない	有効ではない
国内の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ（1月未満）（n=487）	39人 8.0%	165人 33.9%	283人 58.1%	28人 71.8%	11人 28.2%	0人 0.0%	0人 0.0%
国内の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ（1月以上）（n=487）	19人 3.9%	141人 29.0%	327人 67.1%	18人 94.7%	1人 5.3%	0人 0.0%	0人 0.0%
国内の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ以外の国内での学外活動 ※1（n=487）	7人 1.4%	24人 4.9%	456人 93.6%	7人 100.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
※1 「参加した」、「これから参加」と回答した場合、具体的な活動内容や期間を記述してください。							
海外の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ（1月未満）（n=487）	1人 0.2%	118人 24.2%	368人 75.6%	1人 100.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
海外の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ（1月以上）（n=487）	5人 1.0%	128人 26.3%	354人 72.7%	4人 80.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	1人 20.0%
本プログラムの中での留学（3ヶ月未満）（n=487）	5人 1.0%	199人 40.9%	283人 58.1%	5人 100.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
本プログラムの中での留学（3ヶ月以上1年未満）（n=487）	10人 2.1%	135人 27.7%	342人 70.2%	8人 80.0%	1人 10.0%	0人 0.0%	1人 10.0%
本プログラムの中での留学（1年以上）（n=487）	1人 0.2%	59人 12.1%	427人 87.7%	1人 100.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
海外の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップおよび留学以外の国外での学外活動 ※2（n=487）	5人 1.0%	31人 6.4%	451人 92.6%	3人 60.0%	2人 40.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
※2 「参加した」、「これから参加」と回答した場合、具体的な活動内容や期間を記述してください。							

上の理由や特に有効と思ったことがあれば自由に記述してください。

インターンシップや留学等について、新型コロナウイルスの感染症の影響があれば記述してください。また、当初に予定されていた実施方法とは別の方法により代替して行われたことがあれば、その内容を記述してください。

IX. プログラムで身に付いた能力

問 1 2 このプログラムによって、下のような能力は身についたと思いますか。

	非常に 身についた	ある程度 身についた	あまり身につい ていない	身につい ていない
高度な専門的知識・研究能力 (n=473)	147 人 31.1%	249 人 52.6%	56 人 11.8%	21 人 4.4%
高い国際性 (n=472)	121 人 25.6%	210 人 44.5%	108 人 22.9%	33 人 7.0%
専門以外の分野の幅広い知識 (n=470)	170 人 36.2%	227 人 48.3%	54 人 11.5%	19 人 4.0%
物事を俯瞰し本質を見抜く力 (n=471)	143 人 30.4%	228 人 48.4%	77 人 16.3%	23 人 4.9%
自ら課題を発見し解決に挑む力 (n=469)	162 人 34.5%	212 人 45.2%	73 人 15.6%	22 人 4.7%
独創的な能力 (n=470)	139 人 29.6%	216 人 46.0%	85 人 18.1%	30 人 6.4%
チームのマネジメント力 (n=473)	82 人 17.3%	183 人 38.7%	147 人 31.1%	61 人 12.9%
企画立案、関係者との調整、統率する能力 (n=470)	98 人 20.9%	181 人 38.5%	141 人 30.0%	50 人 10.6%
他者と協働する力 (n=469)	140 人 29.9%	212 人 45.2%	83 人 17.7%	34 人 7.2%
その他 (具体的に：) (n=15)	10 人 66.7%	3 人 20.0%	2 人 13.3%	0 人 0.0%

X. 教員の理解度等

問13 以下のような点について、どう考えていますか。

	非常に そう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない
プログラムに参加する教員の間でプログラムについての理解が共有されている (n=487)	184人 37.8%	219人 45.0%	73人 15.0%	11人 2.3%
多くの担当教員の協働によりプログラムが運営されている(一部の教員に負担が集中しているような状態になっていない) (n=487)	178人 36.6%	227人 46.6%	64人 13.1%	18人 3.7%
指導教員や研究室スタッフを含め、プログラムに参加していない教員等はプログラムの目的を理解し、あなたがプログラムに参加することに協力的である (n=487)	241人 49.5%	214人 43.9%	24人 4.9%	8人 1.6%
学術研究だけではなく、企業や政府、国際機関などで活躍する人材を作り出す可能性が大きい (n=487)	205人 42.1%	211人 43.3%	59人 12.1%	12人 2.5%
後輩にもこのプログラムを勧めたい ※ (n=487)	256人 52.6%	202人 41.5%	19人 3.9%	10人 2.1%
※ 「そう思わない」あるいは「全くそう思わない」と回答した場合、その理由を記入してください。				

XI. プログラムの効果・負担等

問14 以下のような点について、どう考えていますか。

	非常に そう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない
このプログラムによって自身の研究に新たな示唆・知見が得られた(得られそうである) (n=487)	218人 44.8%	216人 44.4%	41人 8.4%	12人 2.5%
所属研究室での指導と、このプログラムでの指導が過大な負担にならないように考慮されている(二重の負担になっていない) (n=487)	151人 31.0%	244人 50.1%	74人 15.2%	18人 3.7%
所属研究室において、自分の専門的な研究を進めて、業績を上げられると考えている (n=487)	180人 37.0%	226人 46.4%	56人 11.5%	25人 5.1%
修了後の進路に不安がない (n=487)	80人 16.4%	165人 33.9%	168人 34.5%	74人 15.2%

ご自身の今後の希望や本プログラムによる成果などについてうかがいます

XII. 修了後の進路

問15 修了後の進路についてどのような希望をもっていますか。

	大学院入学時の希望 (いくつでも) (n=487)	現在の希望 (いくつでも) (n=487)	既に進路が 決定している (希望ではなく、決 定している場合1つ だけ) (n=66)
民間企業に就職 (研究者以外として)	163 人 33.5%	178 人 36.6%	13 人 19.7%
民間企業に就職 (研究者として)	262 人 53.8%	303 人 62.2%	13 人 19.7%
官公庁に就職	68 人 14.0%	76 人 15.6%	2 人 3.0%
国際機関に就職	66 人 13.6%	84 人 17.2%	1 人 1.5%
NPO・NGO等 (公共的サービスの提供主体) に 就職	20 人 4.1%	26 人 5.3%	1 人 1.5%
医師、弁護士などの専門職	61 人 12.5%	57 人 11.7%	10 人 15.2%
起業	55 人 11.3%	69 人 14.2%	4 人 6.1%
大学 (海外を含む) に研究者として就職	296 人 60.8%	286 人 58.7%	12 人 18.2%
その他公的研究機関 (海外を含む) に研究者として 就職	213 人 43.7%	225 人 46.2%	1 人 1.5%
ポスドク (博士研究員)	221 人 45.4%	217 人 44.6%	7 人 10.6%
その他 (具体的に :)	2 人 0.4%	3 人 0.6%	2 人 3.0%
決めていない	27 人 5.5%	26 人 5.3%	

問16 プログラムへの参加によって、あなたの人生観、職業観、世界観、国際意識などがどのように変わったかを自由に記入してください。

固有名詞を外すなど個人が特定されない処理をした上で、所属プログラムへ上記のご意見を情報提供しても良いですか。（ はい ・ いいえ ）

問17 大学や研究機関、民間企業、公的研究機関等のそれぞれのセクターを牽引する卓越した博士人材となるために、所属するプログラムにおいてあなたが主体的に行った活動、及びその成果について自由に記入してください。

固有名詞を外すなど個人が特定されない処理をした上で、所属プログラムへ上記のご意見を情報提供しても良いですか。（ はい ・ いいえ ）

全般的なご意見をうかがいます

問18 あなたが参加するプログラムについて、あなたの将来に向けてこのプログラムがどう役立っているか、又はどのように改善してほしいかも含め、感想、ご意見を自由に記入してください。(下記①～③のうち1つでも構いません。)

①<プログラムが役立っている点・良い点>

固有名詞を外すなど個人が特定されない処理をした上で、所属プログラムへ上記のご意見を情報提供しても良いですか。(はい ・ いいえ)

②<改善して欲しい点>

固有名詞を外すなど個人が特定されない処理をした上で、所属プログラムへ上記のご意見を情報提供しても良いですか。(はい ・ いいえ)

③<その他>

固有名詞を外すなど個人が特定されない処理をした上で、所属プログラムへ上記のご意見を情報提供しても良いですか。(はい ・ いいえ)

(参考情報) よろしければご協力ください

問19 あなたはこのプログラムをどのようにして知りましたか(任意回答・あてはまるもの全てに○) (n=462)

1	参加プログラムのホームページ	155人 33.5%
2	文部科学省のホームページ	10人 2.2%
3	日本学術振興会のホームページ	16人 3.5%
4	参加プログラムのリーフレット等	104人 22.5%
5	大学で行われた説明会・シンポジウム等	237人 51.3%
6	大学以外の場所で行われた説明会・シンポジウム等	3人 0.6%
7	新聞、雑誌等の公告	0人 0.0%

8	プログラム担当者の教員	192人 41.6%
9	プログラム担当者以外の教員	79人 17.1%
10	学内の友人・知人	156人 33.8%
11	学外の友人・知人	11人 2.4%
12	Facebook等のSNS	5人 1.1%
13	その他(具体的に:)	12人 2.6%

調査項目はこれで終わりです。ご協力ありがとうございました。

卓越大学院プログラム
令和元年度採択プログラム中間評価
プログラム担当者アンケート調査

- この調査は卓越大学院プログラム（注）の令和元年度採択プログラムの中間評価の一環として実施するものです。採択されたプログラムを担当しておられる大学院教員の方、および学外から協力いただいている方にご意見をうかがい、各プログラムの評価・改善に役立てると同時に、文部科学省の施策の検討の参考とします。
- いただいた回答はすべて統計的に処理され、個人についての情報が他の目的で使われることはありません。調査結果については、プログラムの改善に資するため、記入した個人が特定されないよう固有名詞の削除や複数の類似意見の統合などの処理を行った上で、当該大学に対し情報提供を行うとともに、集計結果を個人等が特定されない範囲で公表することもあります。

注 <卓越大学院プログラムとは>

「卓越大学院プログラム(WISE Program : Doctoral Program for World-leading Innovative & Smart Education)」(以下「本事業」という。)は、新たな知の創造と活用を主導し、次代を牽引する価値を創造するとともに、社会的課題の解決に挑戦して、社会にイノベーションをもたらすことができる博士人材(高度な「知のプロフェッショナル」)を育成することを目的とする事業です。

本事業により、これまで行われてきた世界的課題を解決するグローバルリーダーの育成に加え、今後はさらに、世界の学術を牽引する卓越した研究者や、知を社会に実装することを主導する起業家、イノベーションをリードする企業人、国内外のパブリック・セクターにおいて政策立案をリードする人材など、俯瞰力及び独創力並びに高度な専門性を備え、大学や研究機関、民間企業、公的機関等のそれぞれのセクターを牽引する卓越した博士人材、すなわち、高度な「知のプロフェッショナル」をあらゆるセクターに対し輩出することが期待されています。

担当されているプログラムと、御自身についてうかがいます

I. 回答者の属性

問1 担当の大学・プログラム名・プログラムの設定する領域について、以下に表示されている内容を確認してください。

全体

問2 年齢、性別について選択してください。

年齢 (n=770)	1. 39歳以下	2. 40歳代	3. 50歳代	4. 60歳以上
	60人 7.8%	213人 27.7%	322人 41.8%	175人 22.7%
性別 (n=770)	1. 女性	2. 男性		
	93人 12.1%	677人 87.9%		

問3 プログラムとの関係 (それぞれ一つを選択)

プログラムに参加した年 (n=770)	1. 2019 (令和元) 年度	2. 2020 (令和2) 年度	3. 2021 (令和3) 年度	4. 2022 (令和4) 年度
	496人 64.4%	569人 73.9%	653人 84.8%	617人 80.1%

エフォート (n=770) 申請書に記載されたもの	1. 1割未満	2. 1割以上 2割未満	3. 2割以上 3割未満	4. 3割以上 4割未満	5. 4割以上 5割未満	6. 5割以上 6割未満
	363人 47.1%	194人 25.2%	25人 3.2%	2人 0.3%	3人 0.4%	0人 0.0%
	7. 6割以上 7割未満	8 7割以上 8割未満	9. 8割以上 9割未満	10. 9割以上	11. 採択された後にプログラム 担当者になった	
	2人 0.3%	1人 0.1%	5人 0.6%	7人 0.9%	168人 21.8%	

エフォート (n=770) 令和3年度の実績	1. 1割未満	2. 1割以上 2割未満	3. 2割以上 3割未満	4. 3割以上 4割未満	5. 4割以上 5割未満	6. 5割以上 6割未満
	505人 65.6%	188人 24.4%	33人 4.3%	5人 0.6%	1人 0.1%	2人 0.3%
	7. 6割以上 7割未満	8 7割以上 8割未満	9. 8割以上 9割未満	10. 9割以上		
	4人 0.5%	3人 0.4%	8人 1.0%	21人 2.7%		

本プログラムの学生に直接に接する頻度 (n=770)	1. 日常的	2. 週に1回程度	3. 月に1~2回程度	4. 年に1回~数回	5. 直接には接しない
	158人 20.5%	86人 11.2%	80人 10.4%	280人 36.4%	166人 21.6%

所属(本務) (n=770)	1. 当該大学院・参画研究科・専攻等(プログラムの経費により雇用されている者を除く)	2. 当該大学院・参画研究科・専攻等(プログラムの経費による雇用)	3. 当該大学(1, 2以外)	4. 他大学	5. 研究機関	6. 民間企業
	471人 61.2%	39人 5.1%	86人 11.2%	28人 3.6%	62人 8.1%	67人 8.7%
	7. 政府・自治体	8. 国際機関	9. その他			
	3人 0.4%	6人 0.8%	8人 1.0%			

↓
具体的に書いてください

Ⅱ. プログラムへの関与

問4 このプログラムではどのようなことを担当されていますか(あてはまる項目すべてをクリック) (n=770)

1	単独で講義を担当	207人 26.9%	7	学生募集・入学者選抜	148人 19.2%
2	単独で演習を担当	103人 13.4%	8	就職支援	31人 4.0%
3	協同講義、演習への参加	237人 30.8%	9	プログラムの企画、カリキュラムの作成	168人 21.8%
4	個別学生の研究指導	266人 34.5%	10	インターンシップ	72人 9.4%
5	学生のメンター	263人 34.2%	11	広報	66人 8.6%
6	留学プログラム	35人 4.5%	12	その他	89人 11.6%

別に特に担当されていることがあれば、ご記入ください

具体的に書いてください

プログラムの実施状況について感想をうかがいます

Ⅲ 指導等の内容

問5 このプログラムで、先生は下のような指導を行われていますか。また、行っている場合はそれは有効ですか。（それぞれ該当する回答をクリック。カリキュラムにない場合や今後行う場合は「行っていない」に該当。）新型コロナウイルス感染症の影響前後のそれぞれについて回答してください。

		どの程度の頻度で行っているか ※							有効か			
		毎日	一週間に1回程度	一ヶ月に1回程度	三ヶ月に1回程度	半年に1回程度	半年に1回程度未満	行っていない	有効	ある程度有効	あまり有効ではない	有効ではない
指導学生以外の学生への指導	コロナ禍前 (n=153)	7人 4.6%	18人 11.8%	10人 6.5%	16人 10.5%	23人 15.0%	8人 5.2%	71人 46.4%	207人 52.0%	178人 44.7%	12人 3.0%	1人 0.3%
	コロナ禍後 (n=770)	34人 4.4%	72人 9.4%	57人 7.4%	50人 6.5%	101人 13.1%	79人 10.3%	377人 49.0%				
主専攻以外の分野の学生を対象とした授業等	コロナ禍前 (n=153)	0人 0.0%	12人 7.8%	9人 5.9%	9人 5.9%	15人 9.8%	12人 7.8%	96人 62.7%	168人 51.2%	152人 46.3%	8人 2.4%	0人 0.0%
	コロナ禍後 (n=770)	5人 0.6%	62人 8.1%	41人 5.3%	39人 5.1%	85人 11.0%	92人 11.9%	446人 57.9%				
産学共同研究の場への学生の参画	コロナ禍前 (n=153)	0人 0.0%	4人 2.6%	8人 5.2%	3人 2.0%	13人 8.5%	11人 7.2%	114人 74.5%	107人 56.0%	76人 39.8%	8人 4.2%	0人 0.0%
	コロナ禍後 (n=770)	8人 1.0%	16人 2.1%	31人 4.0%	29人 3.8%	51人 6.6%	52人 6.8%	583人 75.7%				
研究室ローテーションの受け入れ ※名称は問わない（他研究室に一定期間滞在するなど、異分野の専門的な知識を身に付ける機会を指す。）	コロナ禍前 (n=153)	4人 2.6%	3人 2.0%	5人 3.3%	5人 3.3%	9人 5.9%	8人 5.2%	119人 77.8%	91人 53.5%	73人 42.9%	6人 3.5%	0人 0.0%
	コロナ禍後 (n=770)	18人 2.3%	15人 1.9%	22人 2.9%	19人 2.5%	50人 6.5%	43人 5.6%	603人 78.3%				
プロジェクト形式による授業や課題	コロナ禍前 (n=153)	0人 0.0%	6人 3.9%	5人 3.3%	8人 5.2%	15人 9.8%	12人 7.8%	107人 69.9%	127人 57.0%	92人 41.3%	4人 1.8%	0人 0.0%
	コロナ禍後 (n=770)	8人 1.0%	26人 3.4%	30人 3.9%	30人 3.9%	64人 8.3%	61人 7.9%	551人 71.6%				
メンター等としての授業外のサポート	コロナ禍前 (n=153)	1人 0.7%	9人 5.9%	13人 8.5%	14人 9.2%	16人 10.5%	10人 6.5%	90人 58.8%	177人 53.3%	145人 43.7%	9人 2.7%	1人 0.3%
	コロナ禍後 (n=770)	17人 2.2%	40人 5.2%	54人 7.0%	57人 7.4%	93人 12.1%	70人 9.1%	439人 57.0%				

※「研究室ローテーション」については、実施した期間について、左から、「1年のうち1週間程度」「1年のうち2週間程度」「1年のうち1ヶ月程度」「1年のうち2ヶ月程度」「1年のうち3ヶ月程度」「1年のうち半年程度」「行っていない」と置き換えて選択

IV. 学生の学修環境の整備状況とその有効性

問6 このプログラムで、下のようなことは実施、あるいは整備されていますか。また1～3を選択した場合、それは有効に機能していますか。(それぞれ該当する回答をクリック。プログラムのカリキュラムにない場合や今後行う場合は「されていない」に該当。)

	整備されているか				有効か			
	十分に されている	ある程度 されている	されてい ない	分からな い	有効	ある程度 有効	あまり有 効ではな い	有効では ない
企業、政府機関など学外者からの指導 (n=770)	247人 32.1%	228人 29.6%	21人 2.7%	274人 35.6%	288人 58.1%	187人 37.7%	14人 2.8%	7人 1.4%
キャリアパス具体化のための情報提供 例：産学共同研究、産業界等の講師を招 いたセミナー等 (n=770)	278人 36.1%	244人 31.7%	19人 2.5%	229人 29.7%	323人 59.7%	202人 37.3%	11人 2.0%	5人 0.9%
奨励金や授業料免除等大学からの金銭 的支援 (n=770)	385人 50.0%	170人 22.1%	11人 1.4%	204人 26.5%	426人 75.3%	133人 23.5%	3人 0.5%	4人 0.7%
異分野の学生間で切磋琢磨できる環境 例：学生の交流スペース、合同のセミナー 等 (n=770)	280人 36.4%	267人 34.7%	11人 1.4%	212人 27.5%	345人 61.8%	199人 35.7%	10人 1.8%	4人 0.7%
外国人、職業人など、通常の大学院では 接触しにくい人との交流の機会 (n=770)	256人 33.2%	290人 37.7%	13人 1.7%	211人 27.4%	335人 59.9%	210人 37.6%	11人 2.0%	3人 0.5%
国内の民間企業又は官庁、国際機関等へ の研修・インターンシップ（1月未満） (n=770)	166人 21.6%	195人 25.3%	27人 3.5%	382人 49.6%	222人 57.2%	148人 38.1%	8人 2.1%	10人 2.6%
国内の民間企業又は官庁、国際機関等へ の研修・インターンシップ（1月以上） (n=770)	123人 16.0%	170人 22.1%	42人 5.5%	435人 56.5%	172人 51.3%	136人 40.6%	15人 4.5%	12人 3.6%
国内の民間企業又は官庁、国際機関等へ の研修・インターンシップ以外の国内で の学外活動 ※1 (n=770)	53人 6.9%	64人 8.3%	71人 9.2%	582人 75.6%	92人 48.9%	68人 36.2%	15人 8.0%	13人 6.9%
※1 「十分にされている」、「ある程度されている」と回答した場合、具体的な活動内容や期間を記述してください。								
.....								
海外の民間企業又は官庁、国際機関等へ の研修・インターンシップ（1月未満） (n=770)	95人 12.3%	119人 15.5%	74人 9.6%	482人 62.6%	145人 50.3%	109人 37.8%	16人 5.6%	18人 6.3%
海外の民間企業又は官庁、国際機関等へ の研修・インターンシップ（1月以上） (n=770)	88人 11.4%	105人 13.6%	80人 10.4%	497人 64.5%	140人 51.3%	97人 35.5%	18人 6.6%	18人 6.6%
本プログラムの中での留学 (n=770)	111人 14.4%	140人 18.2%	78人 10.1%	441人 57.3%	184人 55.9%	110人 33.4%	18人 5.5%	17人 5.2%
海外の民間企業又は官庁、国際機関等へ の研修・インターンシップおよび留学以 外の国外での学外活動 ※2 (n=770)	36人 4.7%	52人 6.8%	92人 11.9%	590人 76.6%	78人 43.3%	64人 35.6%	21人 11.7%	17人 9.4%
※2 「十分にされている」、「ある程度されている」と回答した場合、具体的な活動内容や期間を記述してください。								
.....								

新型コロナウイルスの感染症の影響があれば記述してください。また、当初に予定されていた実施方法とは別の方法により代替して行われたことがあれば、その内容を記述してください。



V. プログラムの有効性

問7 このプログラムは、学生に以下のような資質を身につけさせるのに、どの程度有効ですか。

	非常に有効	ある程度有効	あまり有効ではない	有効ではない
高度な専門的知識・研究能力 (n=745)	407人 54.6%	320人 43.0%	14人 1.9%	4人 0.5%
高い国際性 (n=741)	315人 42.5%	385人 52.0%	38人 5.1%	3人 0.4%
専門以外の分野の幅広い知識 (n=741)	399人 53.8%	318人 42.9%	22人 3.0%	2人 0.3%
物事を俯瞰し本質を見抜く力 (n=741)	330人 44.5%	373人 50.3%	35人 4.7%	3人 0.4%
自ら課題を発見し解決に挑む力 (n=741)	375人 50.6%	335人 45.2%	28人 3.8%	3人 0.4%
独創的な能力 (n=739)	299人 40.5%	392人 53.0%	44人 6.0%	4人 0.5%
チームのマネジメント力 (n=738)	232人 31.4%	388人 52.6%	104人 14.1%	14人 1.9%
企画立案、関係者との調整、統率する能力 (n=733)	260人 35.5%	377人 51.4%	89人 12.1%	7人 10.0%
他者と協働する力 (n=737)	324人 44.0%	351人 47.6%	55人 7.5%	7人 0.9%
その他 (具体的に：) (n=39)	30人 76.9%	8人 20.5%	0人 0.0%	1人 2.6%

VI. プログラムの運営・管理

問8 運営・管理の面で、以下の点についてどう考えられていますか。

	非常に そう思う	そう思う	そう思わない	全くそう思わない
産業界、行政機関、NPO等によるプログラムへの参画と就職先に関する情報提供が行われている (n=729)	204人 28.0%	402人 55.1%	117人 16.0%	6人 0.8%
学長のリーダーシップが発揮されている (n=723)	232人 32.1%	360人 49.8%	121人 16.7%	6人 0.8%
大学本部による関与・サポートを含めた連携する民間企業と「組織」対「組織」の連携・協力体制が構築されている (n=725)	245人 33.8%	383人 52.8%	91人 12.6%	6人 0.8%
プログラムの継続・発展を図るための民間企業等による積極的な投資が行われている (n=722)	175人 24.2%	335人 46.4%	193人 26.7%	19人 2.6%

大学と連携先機関との若手教員の人事交流及びそれを促進する仕組みが構築されている (n=729)	180人 24.7%	377人 51.7%	155人 21.3%	17人 2.3%
コストを意識した運営がなされている (n=716)	195人 27.2%	437人 61.0%	79人 11.0%	5人 0.7%
学内外へのプログラム内容や成果の広報が積極的に行われている (n=728)	276人 37.9%	380人 52.2%	69人 9.5%	3人 0.4%

Ⅶ. プログラムに対する印象

問9 以下の点について、どう考えられていますか。

	非常に そう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない
プログラム担当者間でのプログラムについての理解の共有ができています (n=733)	187人 25.5%	427人 58.3%	104人 14.2%	15人 2.0%
連携先機関と共通理念に基づいた教育が行われている (n=723)	193人 26.7%	452人 62.5%	72人 10.0%	6人 0.8%
既存の研究科等や機関の枠を超え、博士課程前期・後期一貫した体系的な教育課程の編成による高度な研究を通じた組織的な教育が行われている (n=731)	278人 38.0%	403人 55.1%	44人 6.0%	6人 0.8%
プログラムを通じて授与される学位の質保証が適切に行われている (n=723)	264人 36.5%	413人 57.1%	44人 6.1%	2人 0.3%
多くの担当教員の協働によりプログラムが運営されている(一部の教員に負担が集中しているような状態になっていない) (n=733)	223人 30.4%	407人 55.5%	91人 12.4%	12人 1.6%
プログラム担当者以外の教員の理解があり、協力的である (n=724)	199人 27.5%	409人 56.5%	105人 14.5%	11人 1.5%
大学の執行部が、プログラムの目的を理解し、協力的である (n=724)	297人 41.0%	378人 52.2%	38人 5.2%	11人 1.5%
優秀な学生が多数入学している (n=731)	31人 4.2%	358人 49.0%	57人 7.8%	6人 0.8%
今後優秀な学生をより多く獲得できる (n=731)	285人 39.0%	384人 52.5%	56人 7.7%	6人 0.8%
優秀な社会人の博士学位の取得促進が行われている (n=725)	172人 23.7%	368人 50.8%	170人 23.4%	15人 2.1%
学生はプログラムの意図を良く理解している (n=729)	238人 32.6%	423人 58.0%	63人 8.6%	5人 0.7%
学生にとって、将来の進路が明確になっている (n=730)	195人 26.7%	405人 55.5%	123人 16.8%	7人 1.0%
学術研究だけでなく、企業や政府、国際機関などで活躍する人材を作り出す見込みがある (n=731)	275人 37.6%	382人 52.3%	67人 9.2%	7人 1.0%

このプログラムによって、大学院制度の改善に大きな示唆が得られている (n=729)	232 人 31.8%	385 人 52.3%	103 人 14.1%	9 人 1.2%
このプログラムが補助期間終了後も大学の独自財源により持続的に運営される見通しがある (n=719)	142 人 19.7%	395 人 54.9%	153 人 21.3%	29 人 4.0%
これから進学を考えている学生にこのプログラムを勧めたい (n=731)	341 人 46.6%	355 人 48.6%	29 人 4.0%	6 人 0.8%

プログラムの改善のための方策についてうかがいます

VIII. プログラムの改善

問10-1 このプログラムにおいてあなたが担当する指導・支援方法の改善のため、学生等による評価やアンケート（紙面やパソコン上のデータとして記録・保存をしているもの）を行っていますか。下記から一つ選択してください。 (n=770)

1	担当する全ての役割等において実施している	84 人 10.9%
2	担当する一部の役割等において実施している	175 人 22.7%
3	実施していない	511 人 66.4%

【1または2と回答した方のみお答えください】

問10-2 上記評価やアンケートの結果を踏まえ、具体的に改善を図った内容があれば、その内容についてお答えください。

問11 以下の点について、どう考えられていますか。

	非常に そう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない
このプログラムによって学生自身の研究に新たな示唆・知見が得られる（得られそうである） (n=743)	334 人 45.0%	383 人 51.5%	24 人 3.2%	2 人 0.3%

学生にとって、所属研究室での指導と、このプログラムでの指導が過大な負担にならないように考慮されている（二重の負担になっていない） (n=737)	197 人 26.7%	471 人 63.9%	58 人 7.9%	11 人 1.5%
プログラムに参画している学生は所属研究室において、自分の専門的な研究を進めて、業績を上げられると考えられる (n=734)	300 人 40.9%	402 人 54.8%	28 人 3.8%	4 人 0.5%
学生の将来の進路に不安がない (n=735)	129 人 17.6%	372 人 50.6%	213 人 29.0%	21 人 2.9%

全般的なご意見をうかがいます

問 1 2 この質問票でお尋ねした点、あるいは、それ以外にも、このプログラムについてお考えがあれば、ご意見を自由にお書きください

固有名詞を外すなど個人が特定されない処理をした上で、所属プログラムへ上記のご意見を情報提供しても良いですか。 （ はい ・ いいえ ）

調査項目はこれで終わりです。ご協力ありがとうございました。